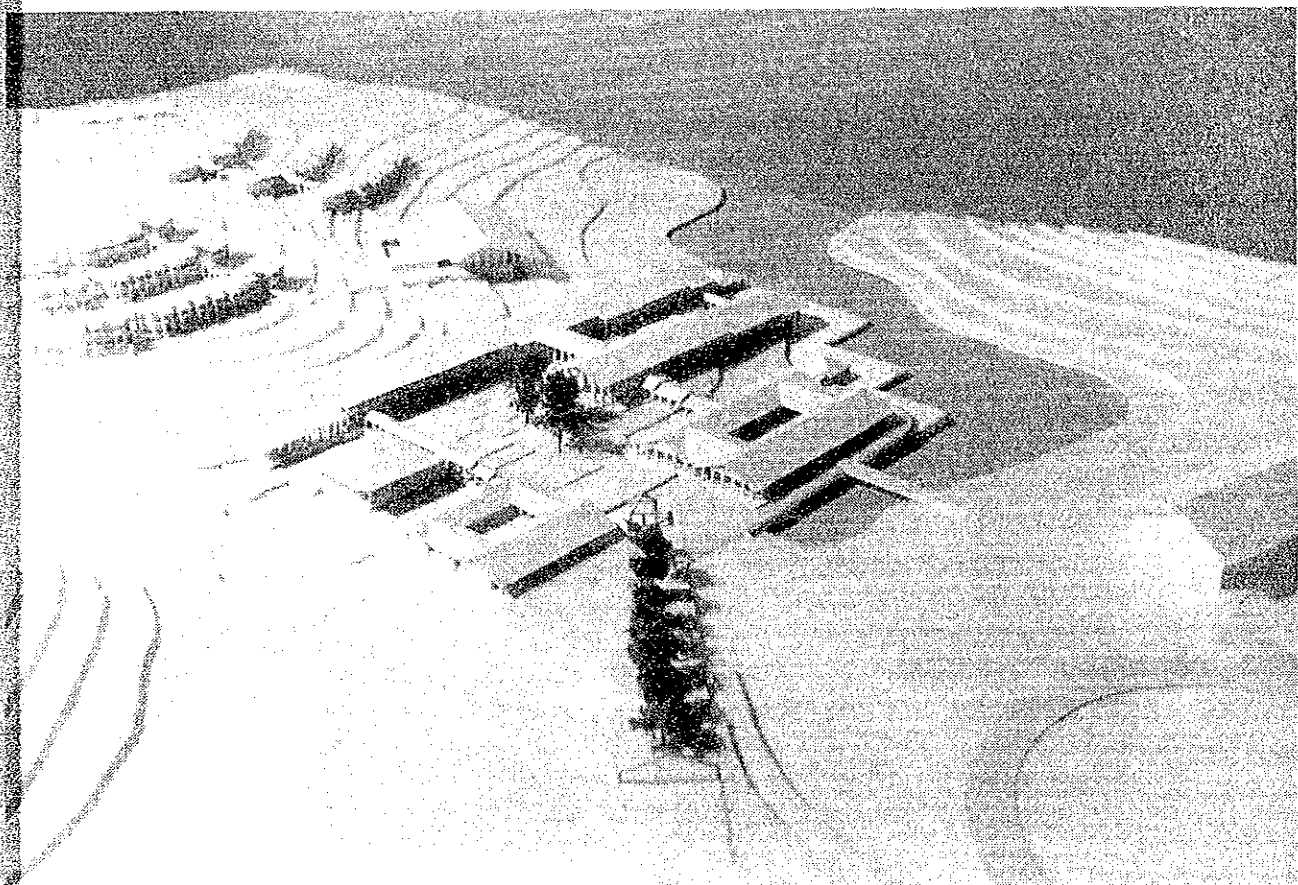
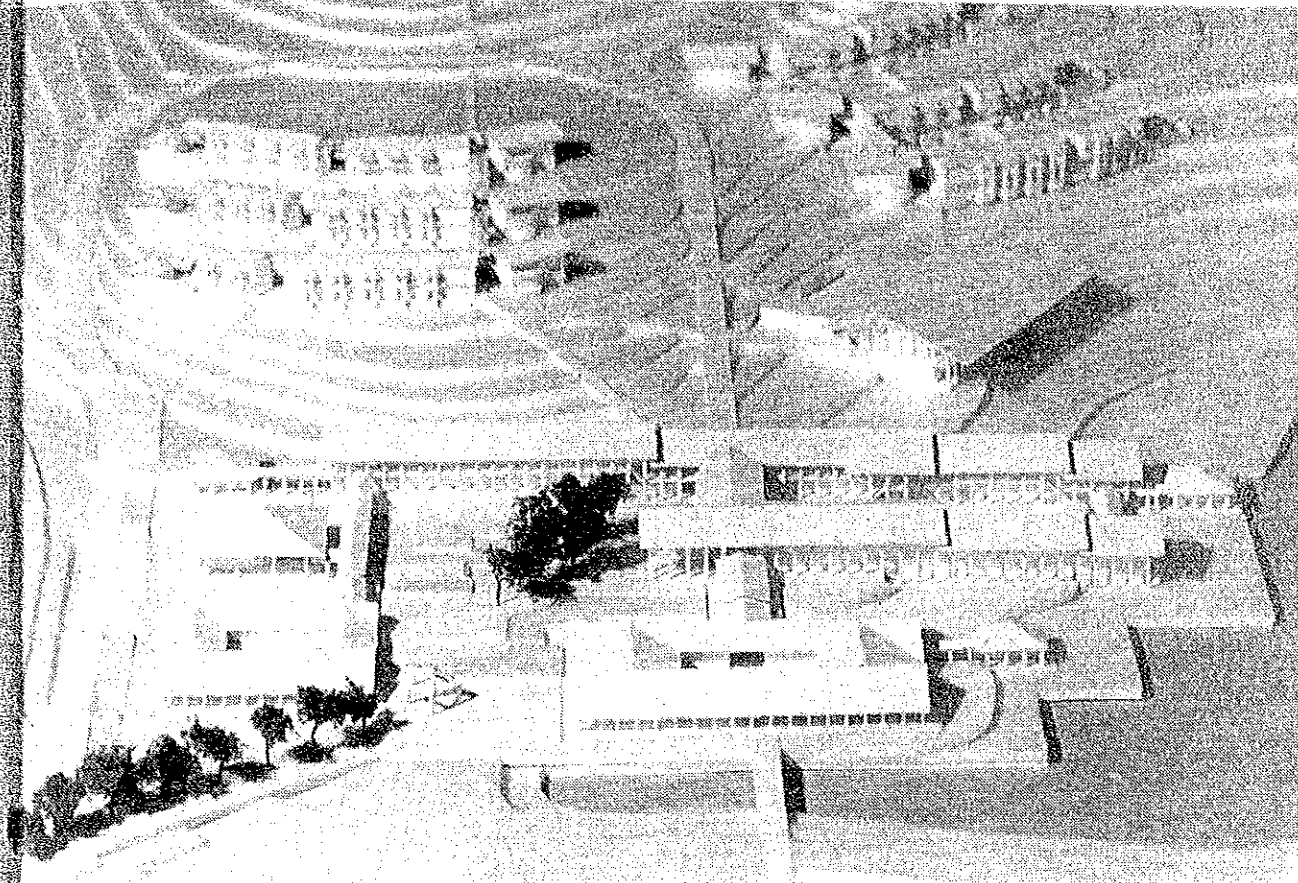
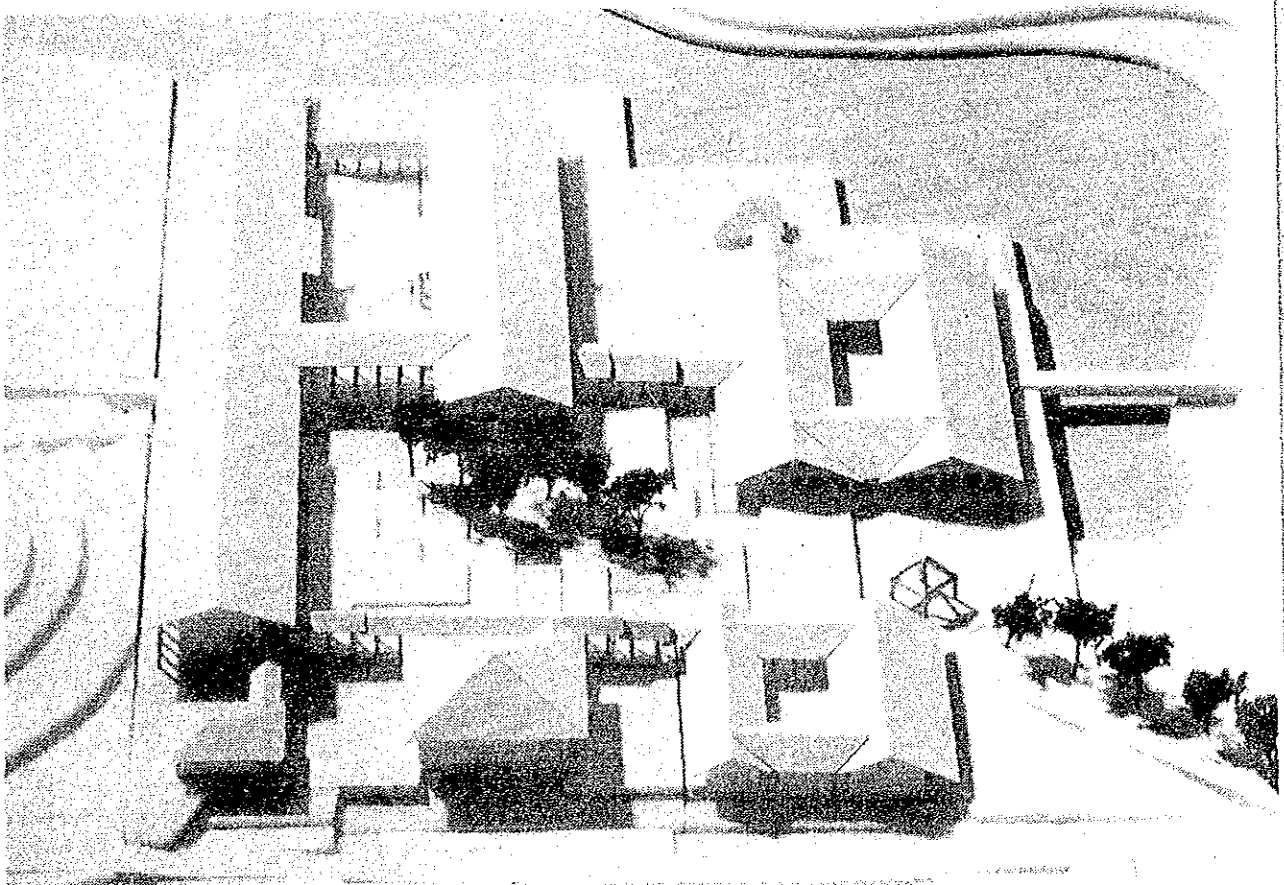
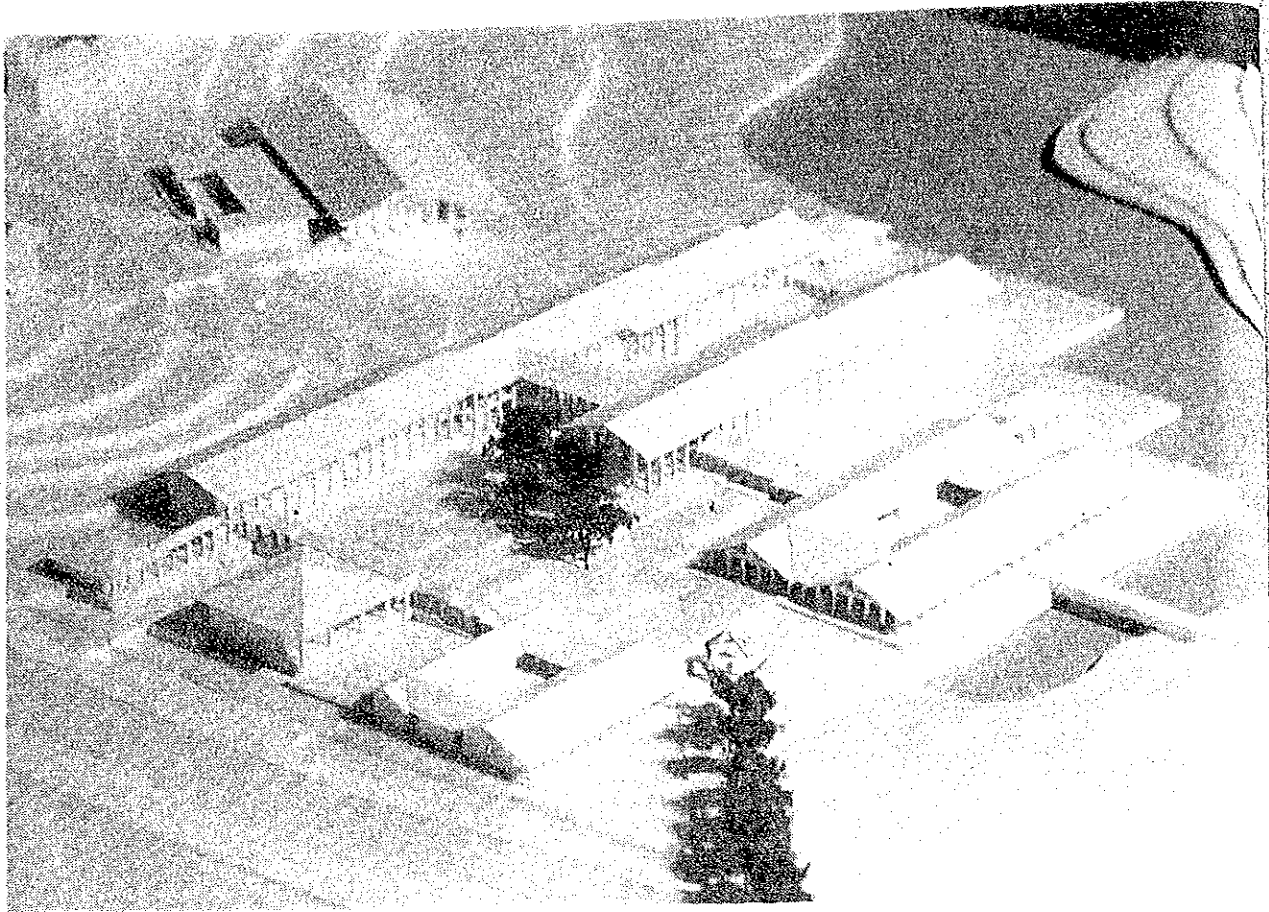
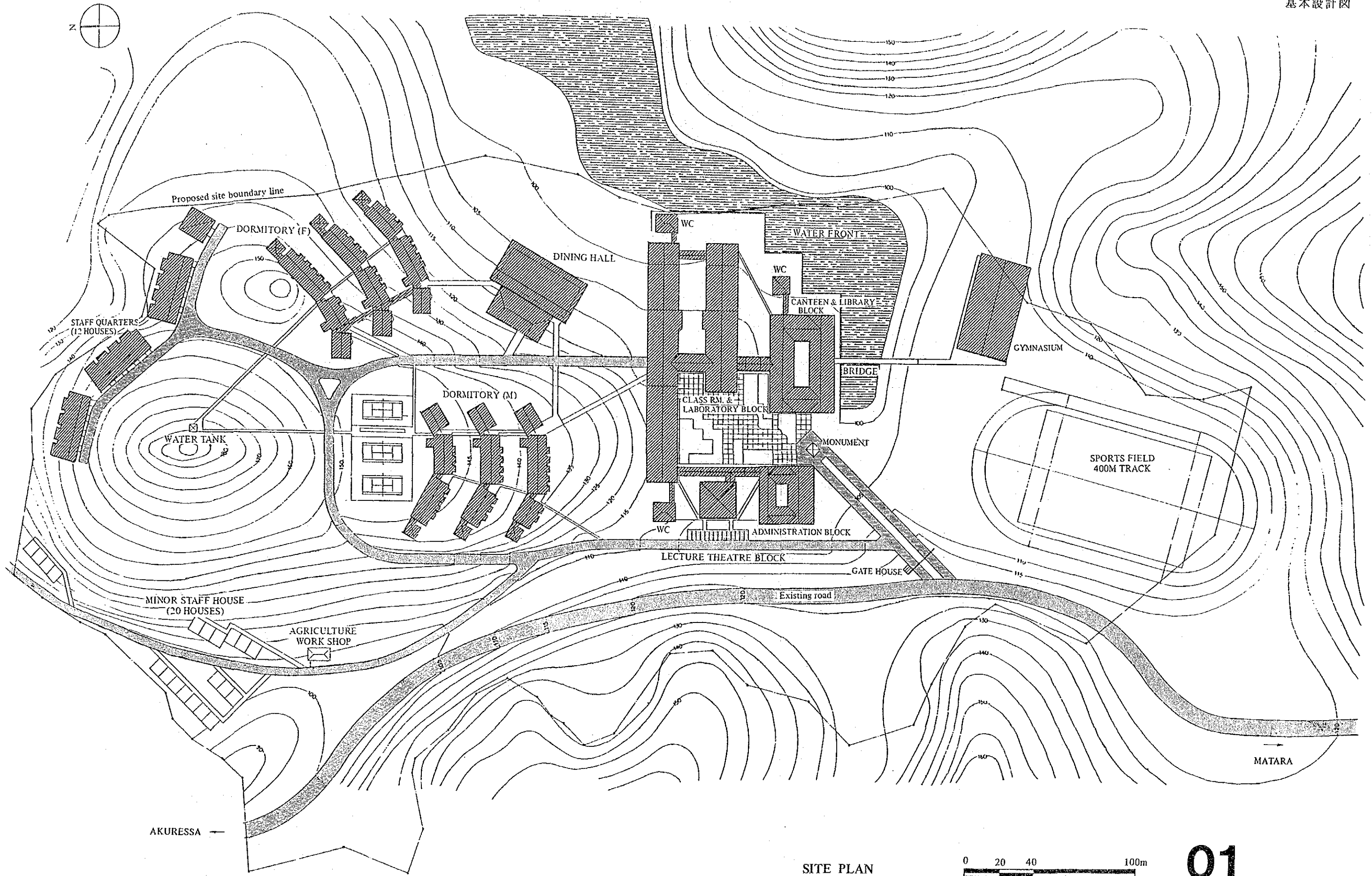


基本設計図

1. SITE PLAN
2. ACADEMIC BLOCK GF PLAN
3. ACADEMIC BLOCK 1F PLAN
4. ACADEMIC BLOCK RF PLAN
5. ACADEMIC BLOCK ELEVATION・SECTION
6. ACADEMIC BLOCK ELEVATION・SECTION
7. ACADEMIC BLOCK ELEVATION・SECTION
8. GYMNASIUM PLAN
9. GYMNASIUM ELEVATION・SECTION
10. DINING HALL BLDG PLAN
11. DINING HALL BLDG ELEVATION・SECTION
12. DORMITORY (MALE STUDENTS) GF PLAN
13. DORMITORY (MALE STUDENTS) 1F・RF PLAN
14. DORMITORY (FEMALE STUDENTS) GF PLAN
15. DORMITORY (FEMALE STUDENTS) 1F・RF PLAN
16. DORMITORY ELEVATION・SECTION
17. SENIOR STAFF HOUSE
18. WATER SUPPLY SYSTEM & DRAINAGE SYSTEM
19. ELECTRICAL SYSTEM
20. TELEPHONE SYSTEM



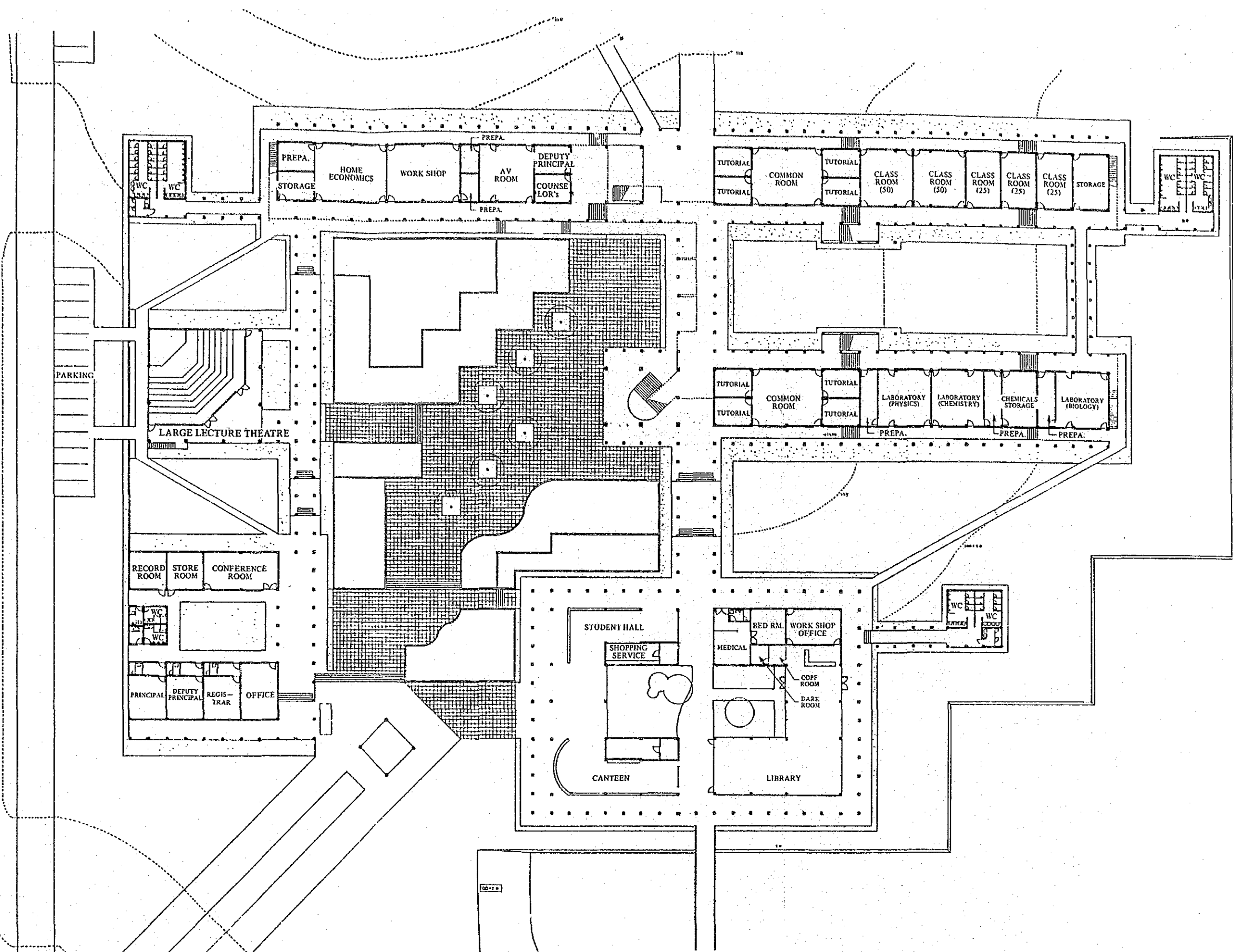
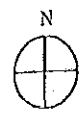




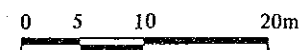
SITE PLAN



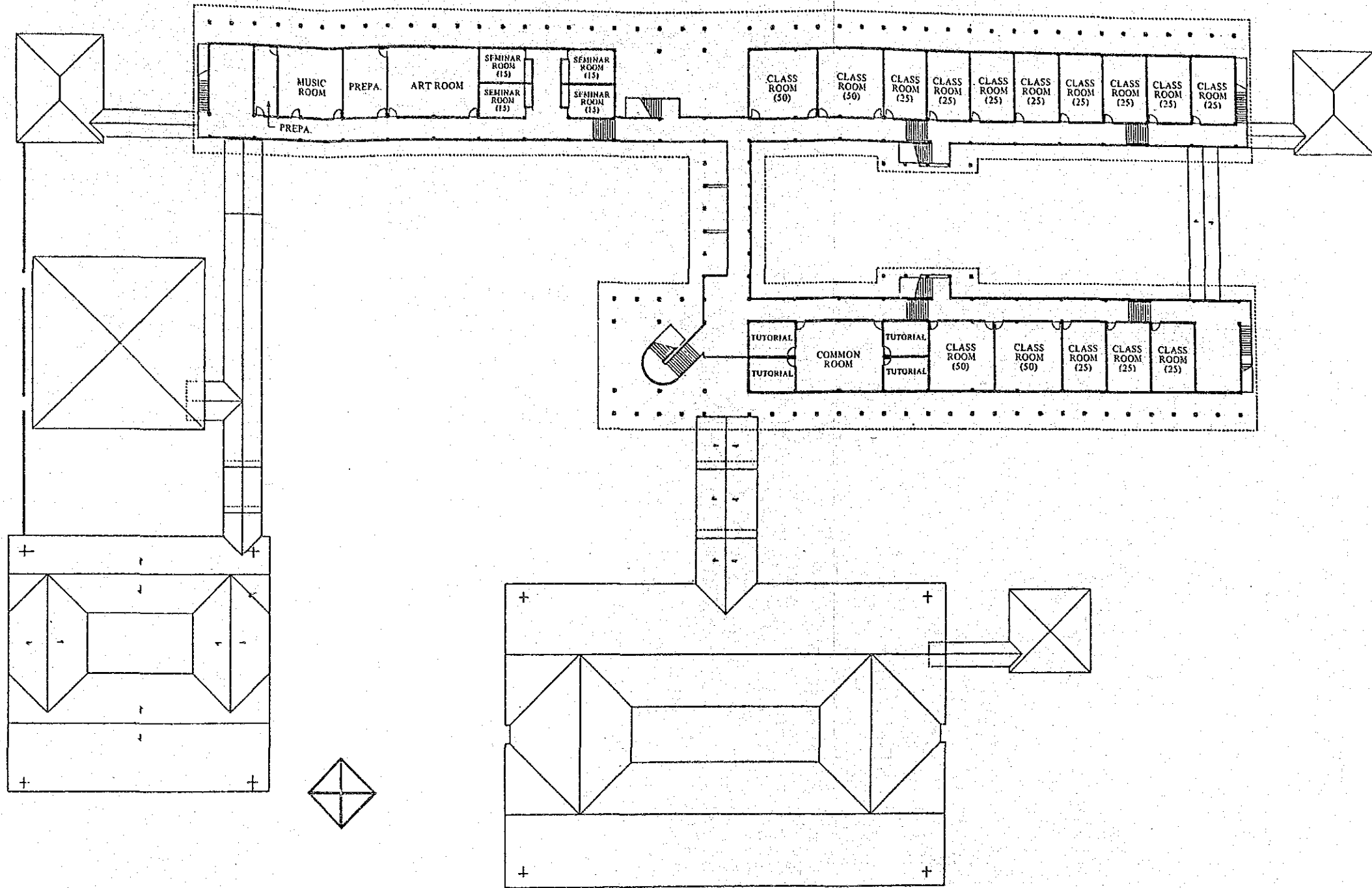
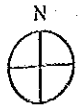
01



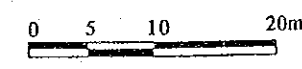
ACADEMIC BLOCK GF PLAN



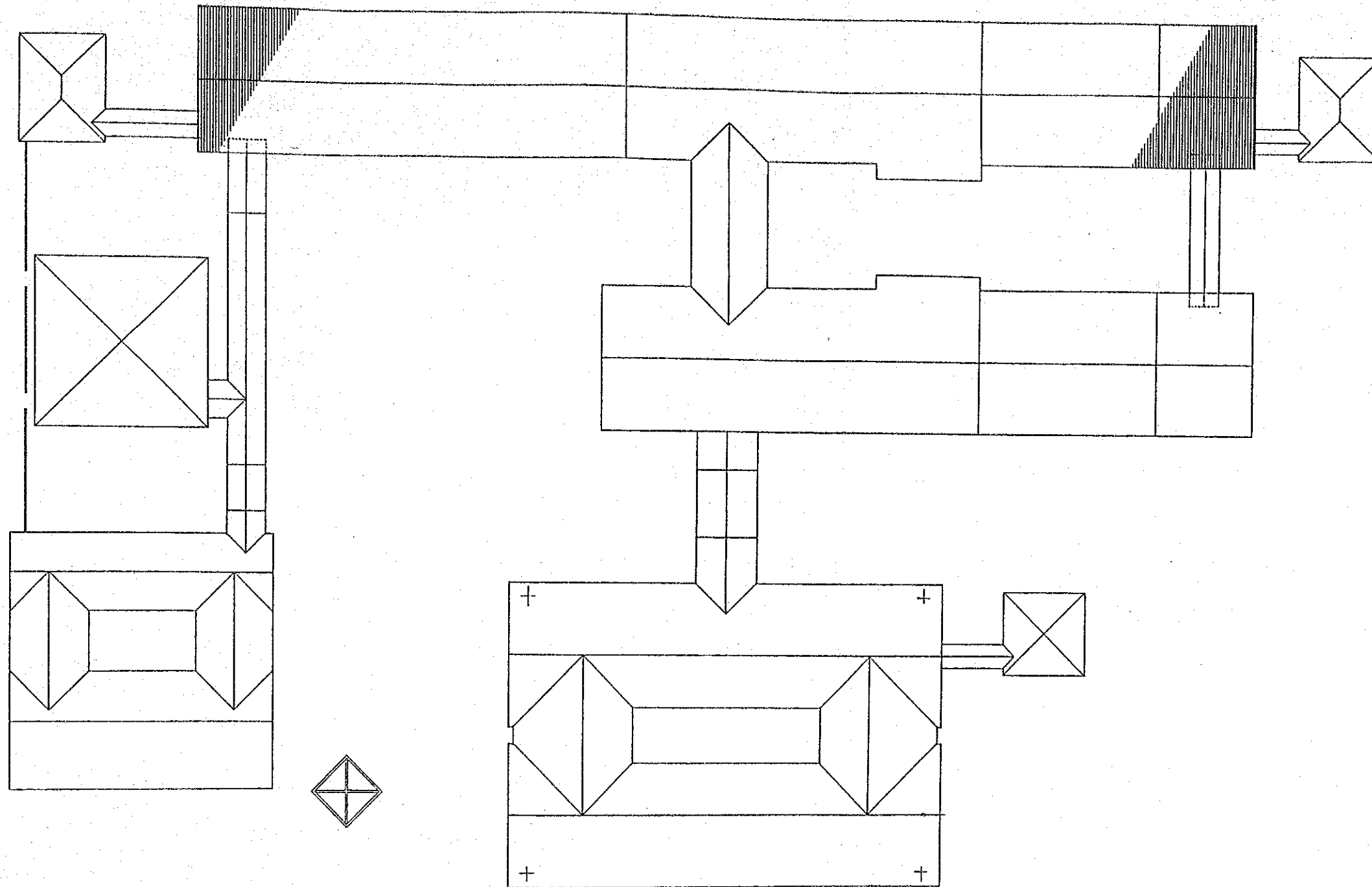
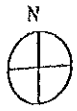
02



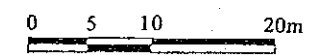
ACADEMIC BLOCK 1F PLAN



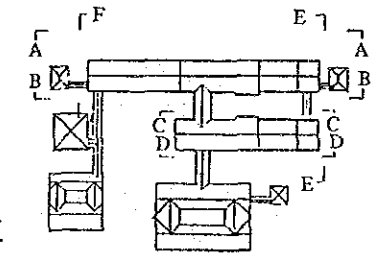
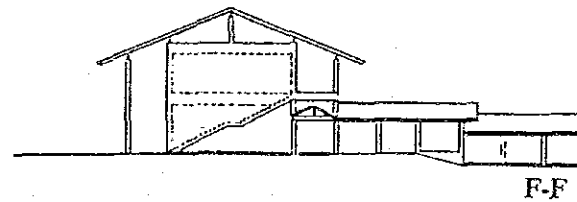
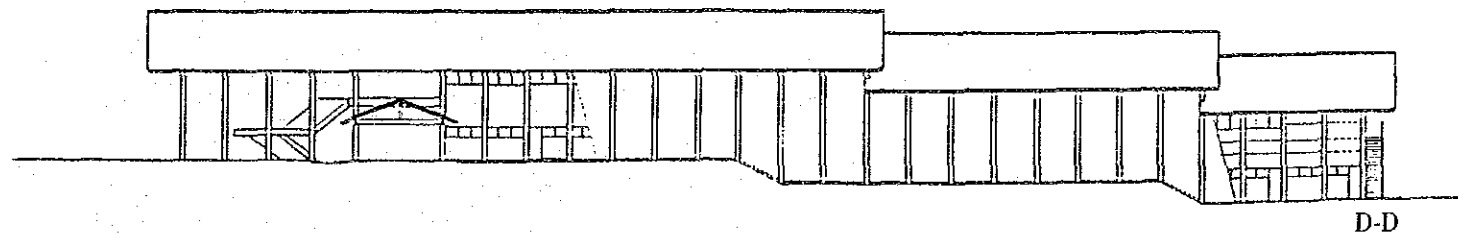
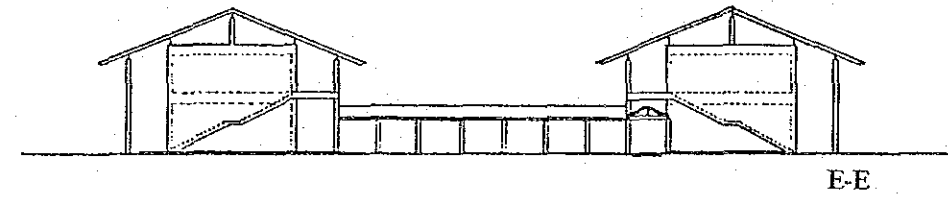
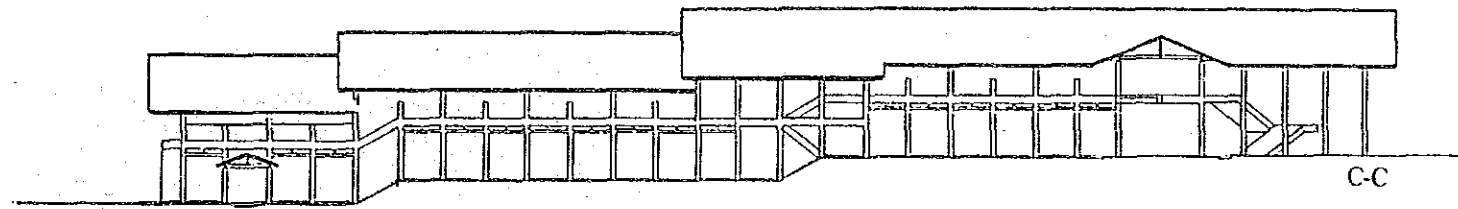
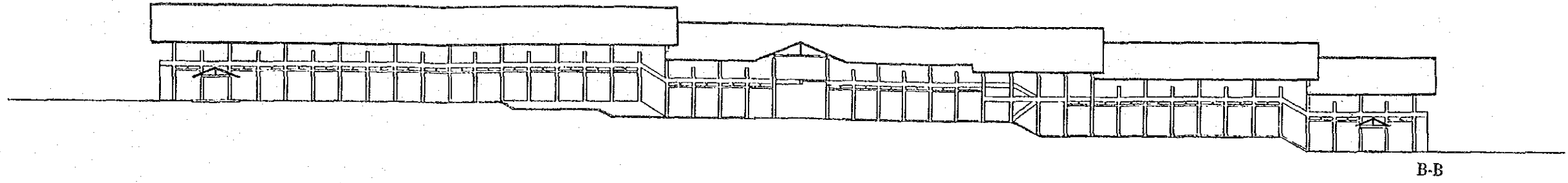
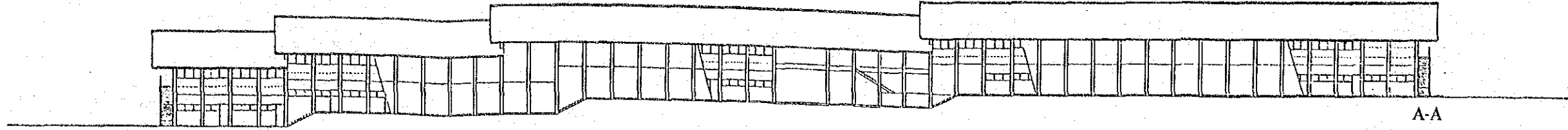
03



ACADEMIC BLOCK RF PLAN

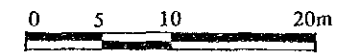


04

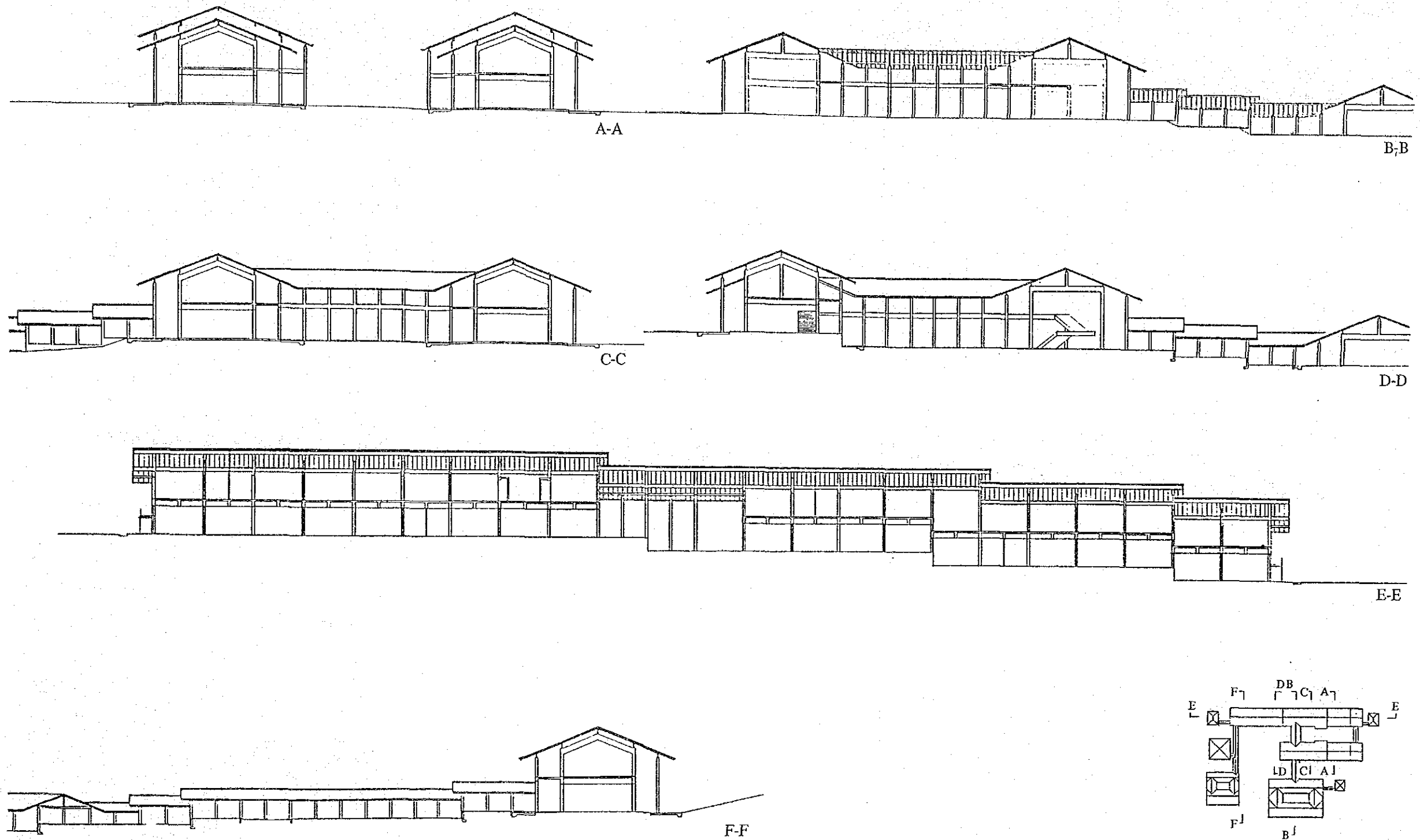


KEY PLAN

ACADEMIC BLOCK ELEVATION · SECTION



05



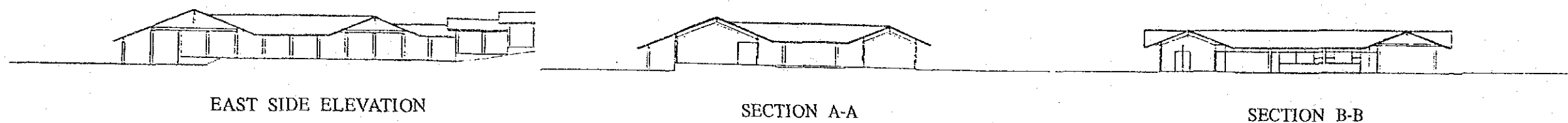
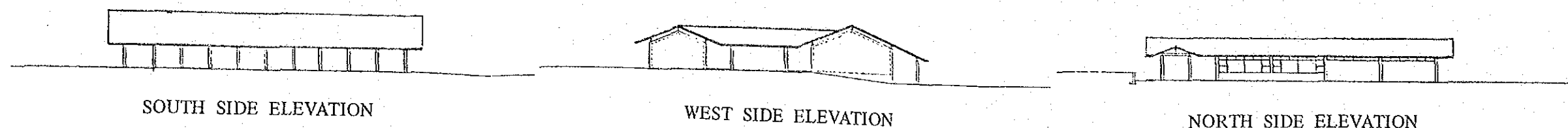
ACADEMIC BLOCK ELEVATION • SECTION

0 5 10 20m

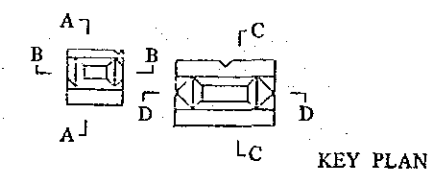
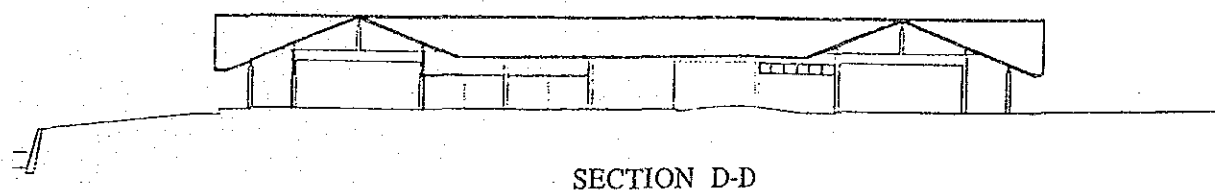
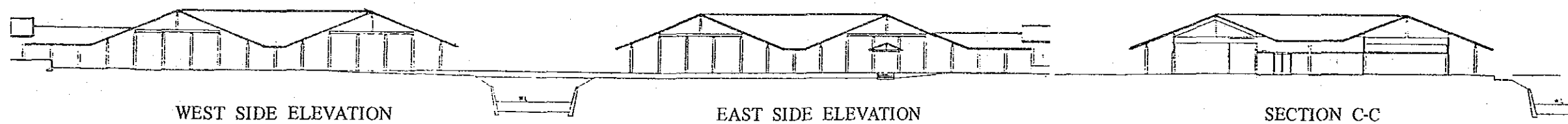
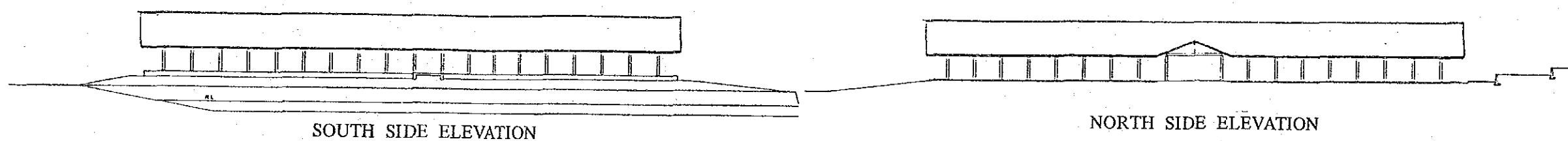
KEY PLAN

06

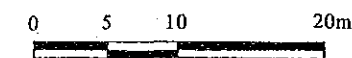
ADMINISTRATION BLOCK



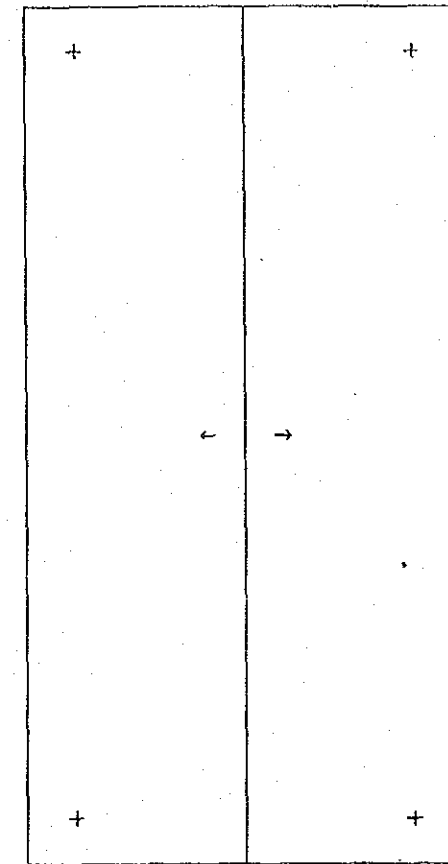
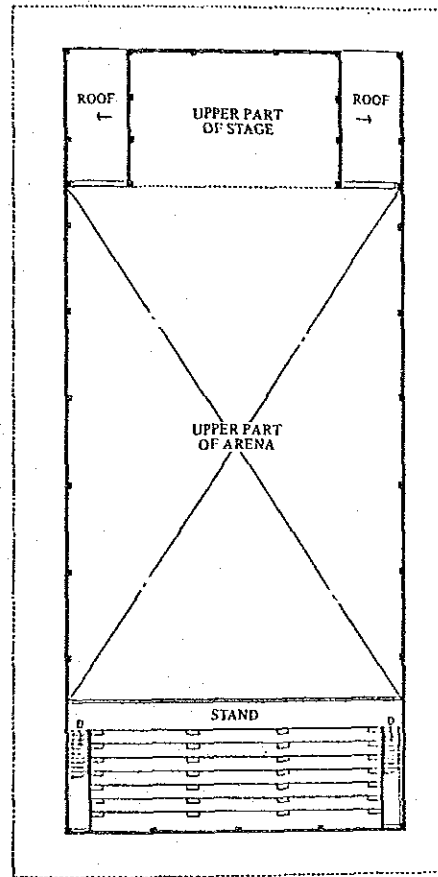
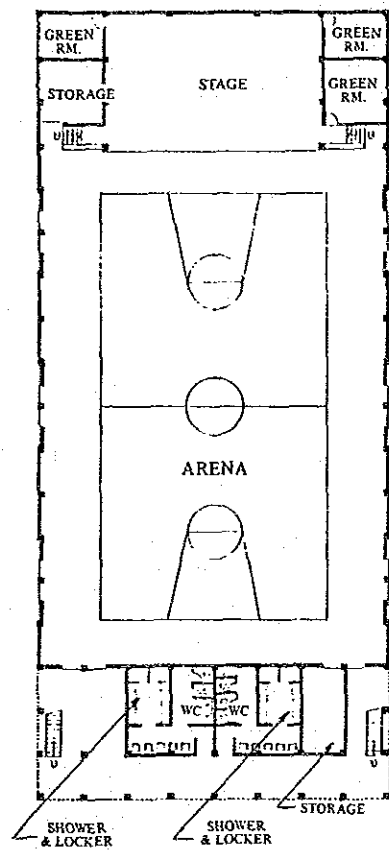
CANTEEN & LIBRARY BLOCK



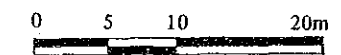
ACADEMIC BLOCK ELEVATION · SECTION



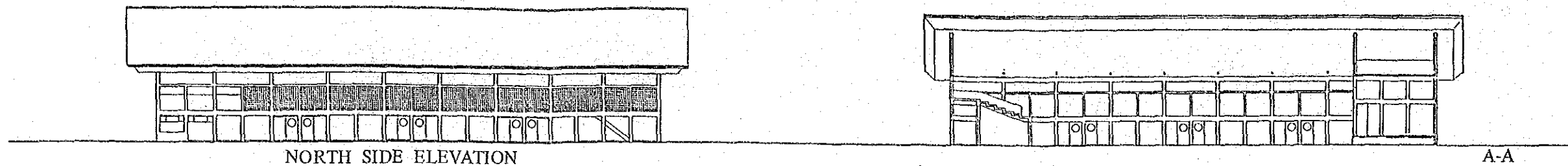
07



GYMNASIUM PLAN

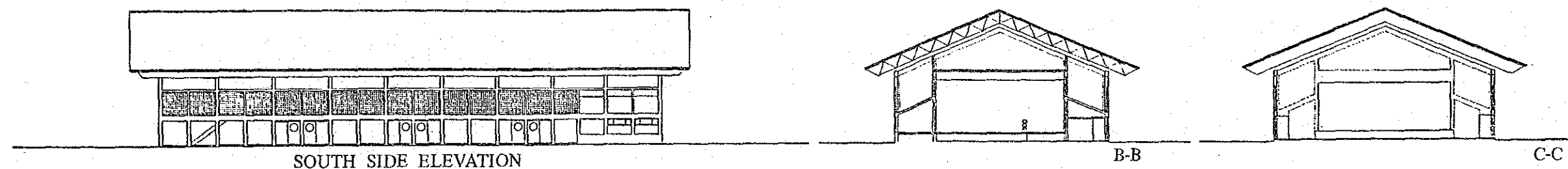


08



NORTH SIDE ELEVATION

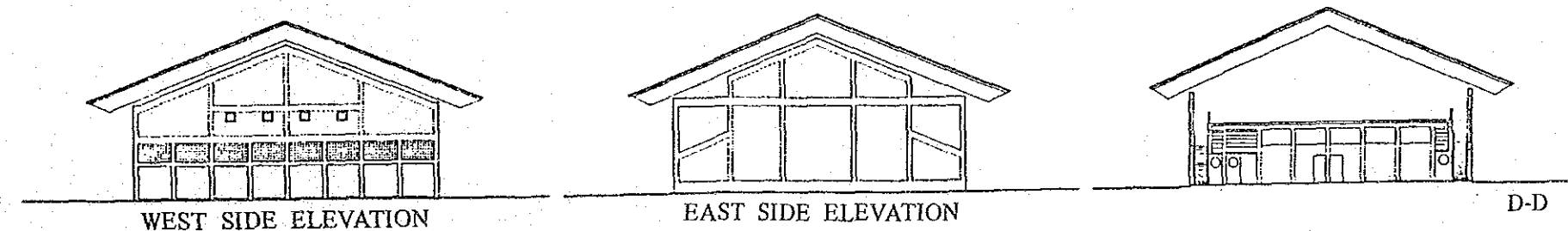
A-A



SOUTH SIDE ELEVATION

B-B

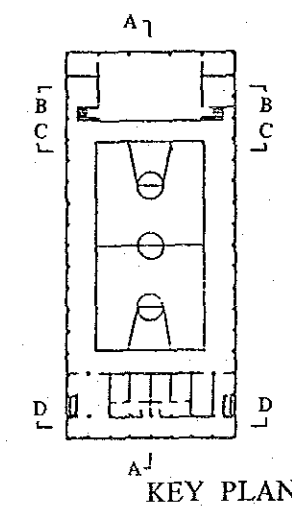
C-C



WEST SIDE ELEVATION

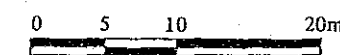
EAST SIDE ELEVATION

D-D

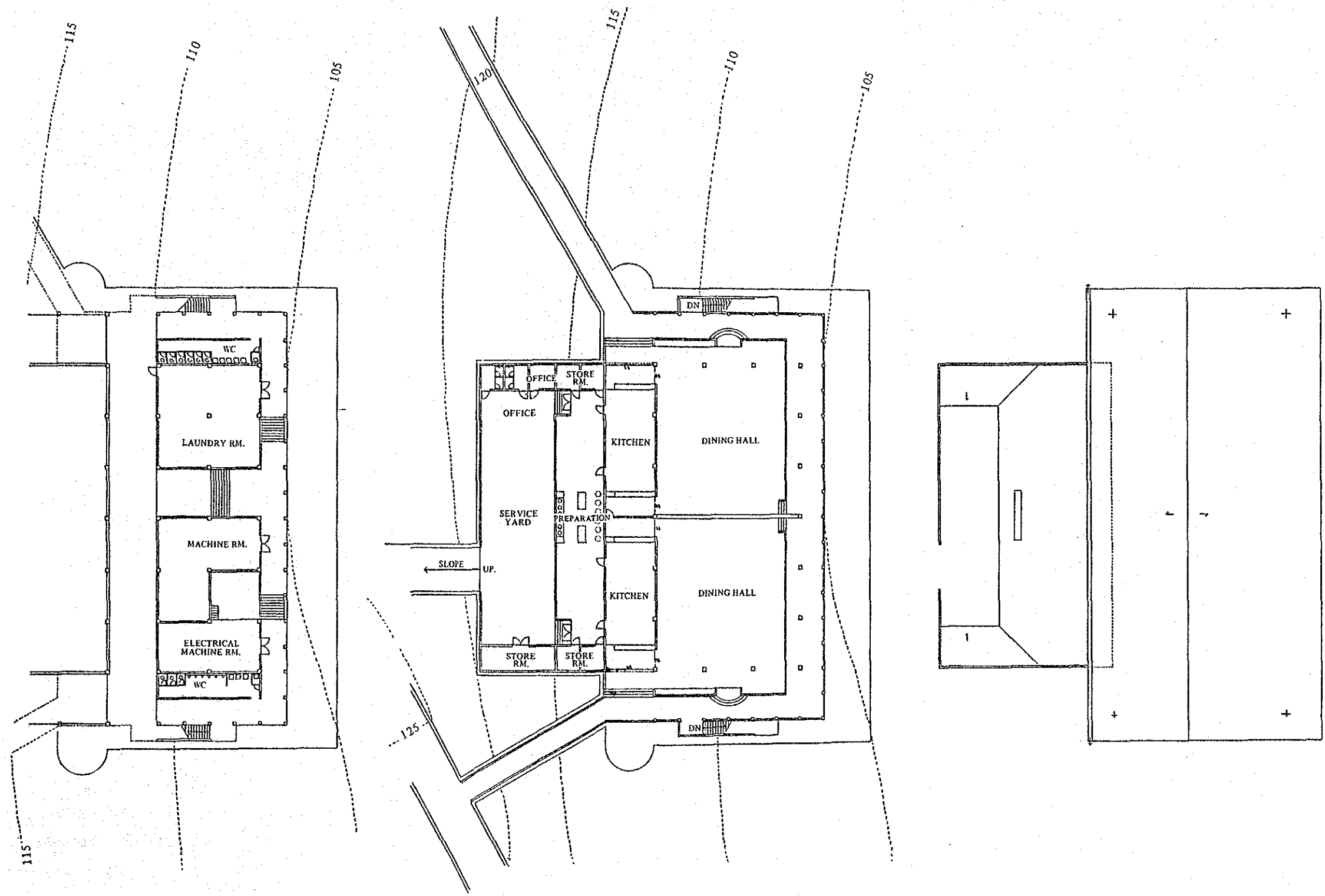


KEY PLAN

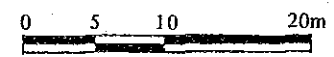
GYMNASIUM ELEVATION · SECTION



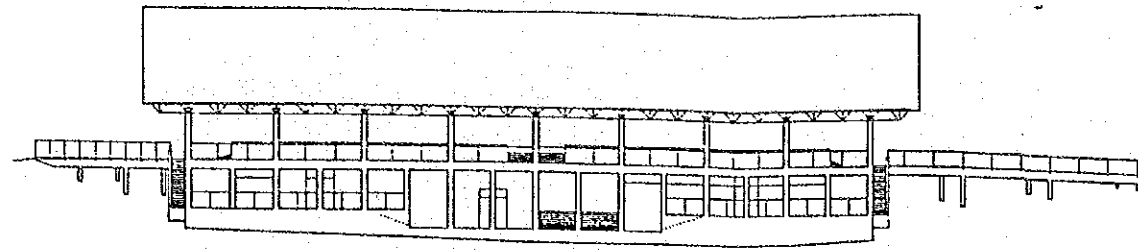
09



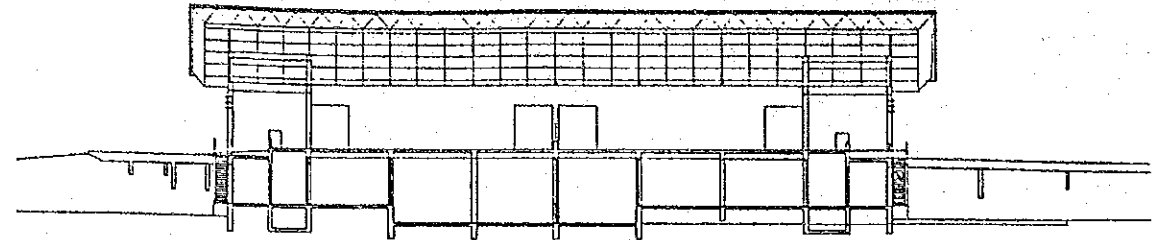
DINING HALL BLDG. PLAN



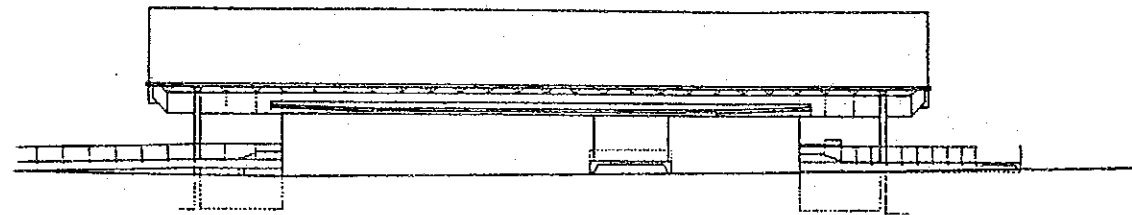
10



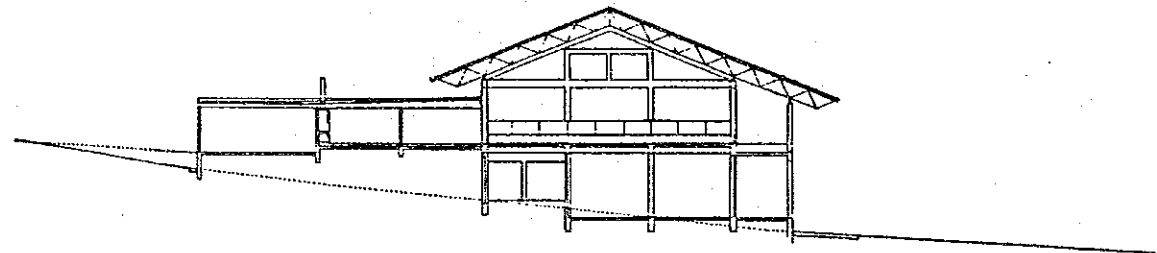
NORTH-WEST SIDE ELEVATION



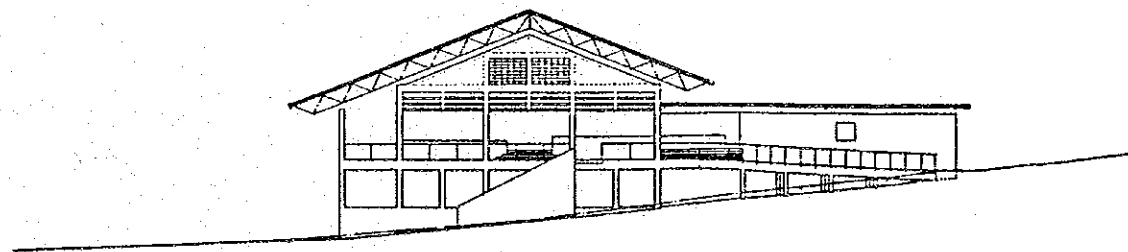
SECTION A-A



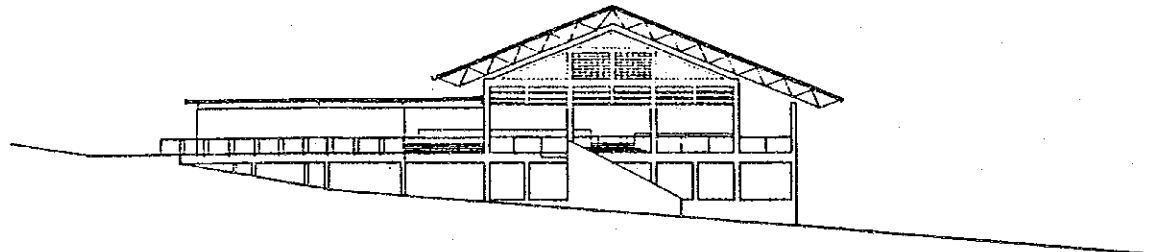
SOUTH-EAST SIDE ELEVATION



SECTION B-B

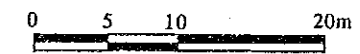


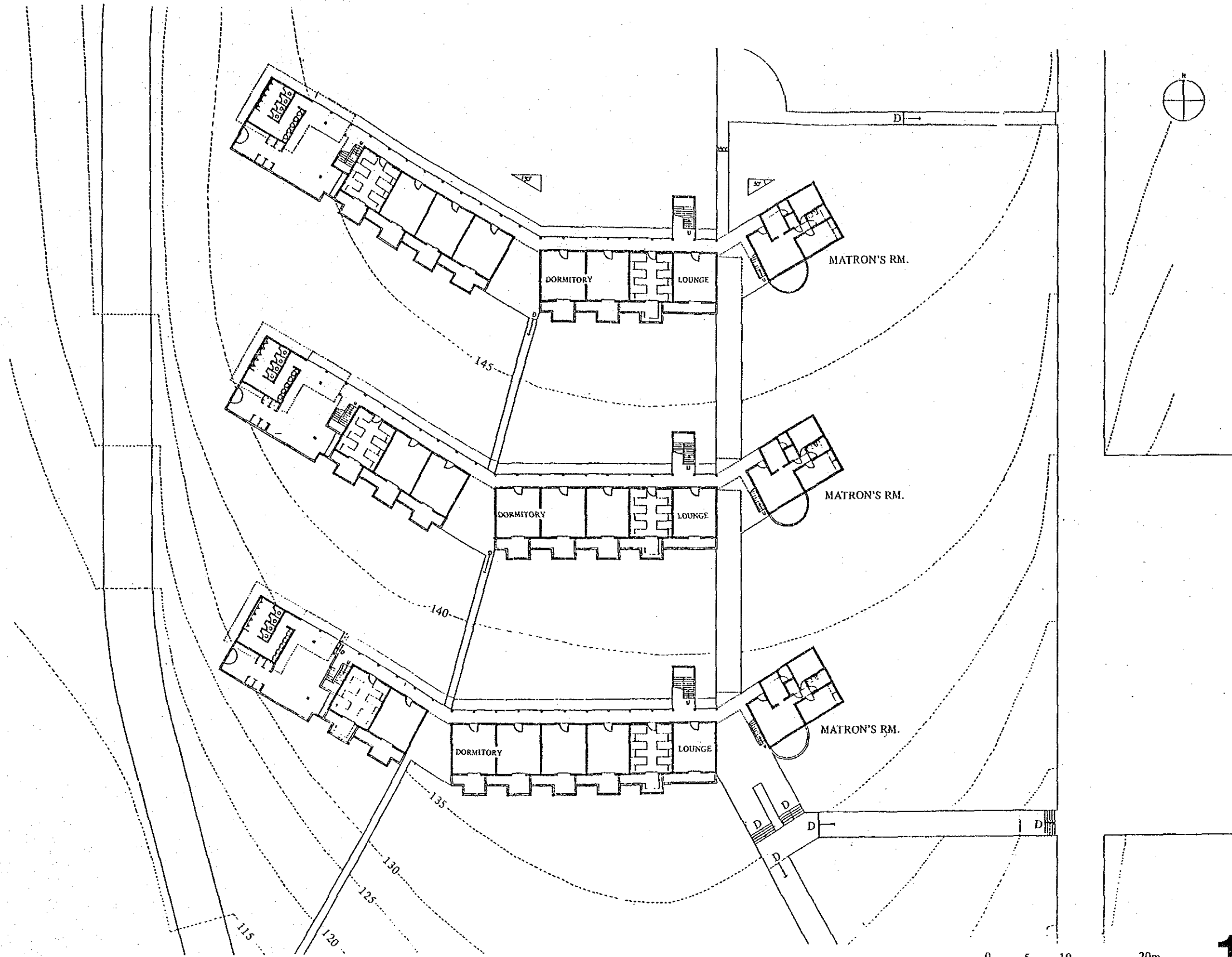
NORTH-EAST SIDE ELEVATION



SOUTH-WEST SIDE ELEVATION

DINING HALL BLDG. ELEVATION · SECTION

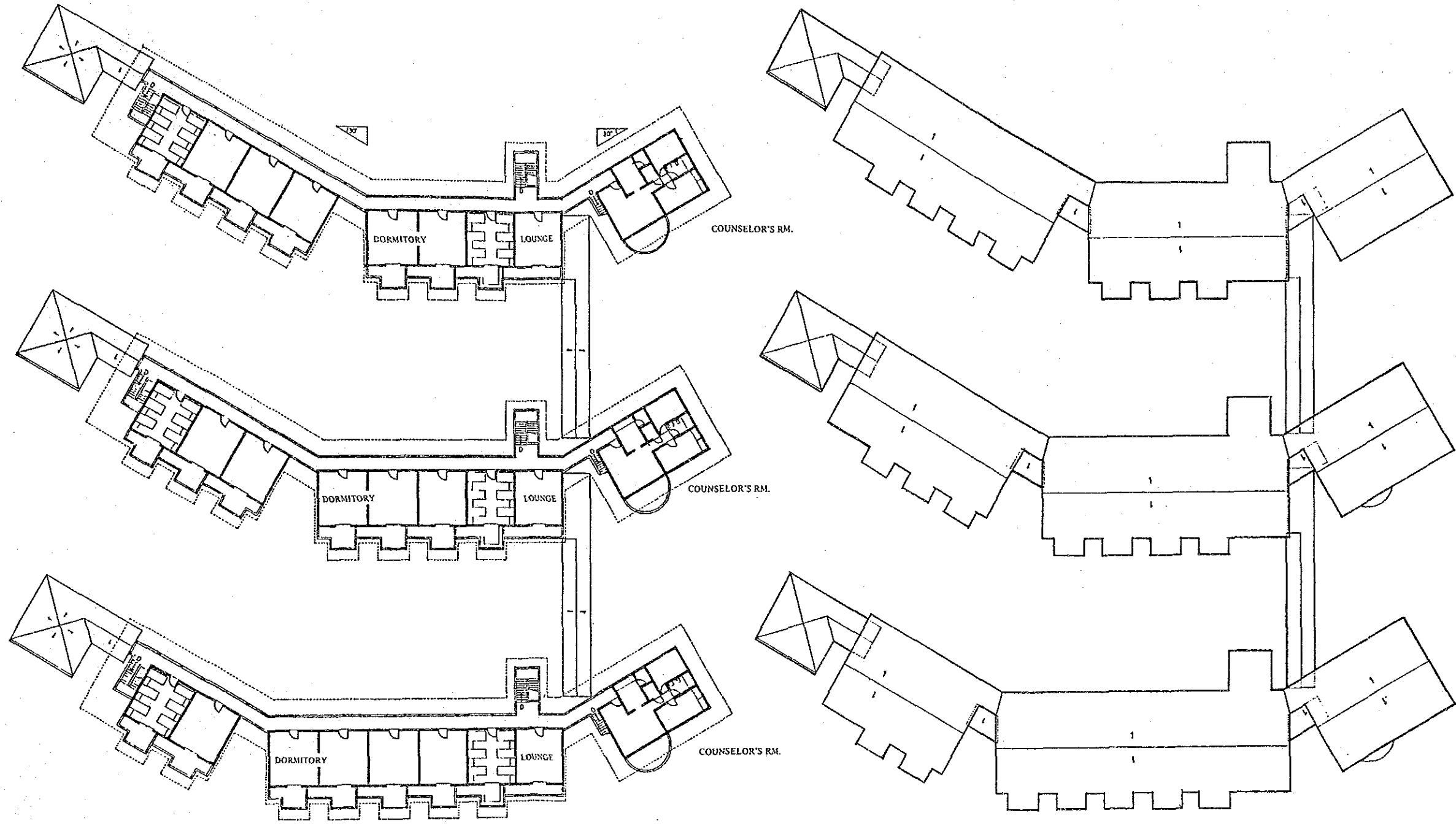




DORMITORY (MALE STUDENTS) GF PLAN

0 5 10 20m

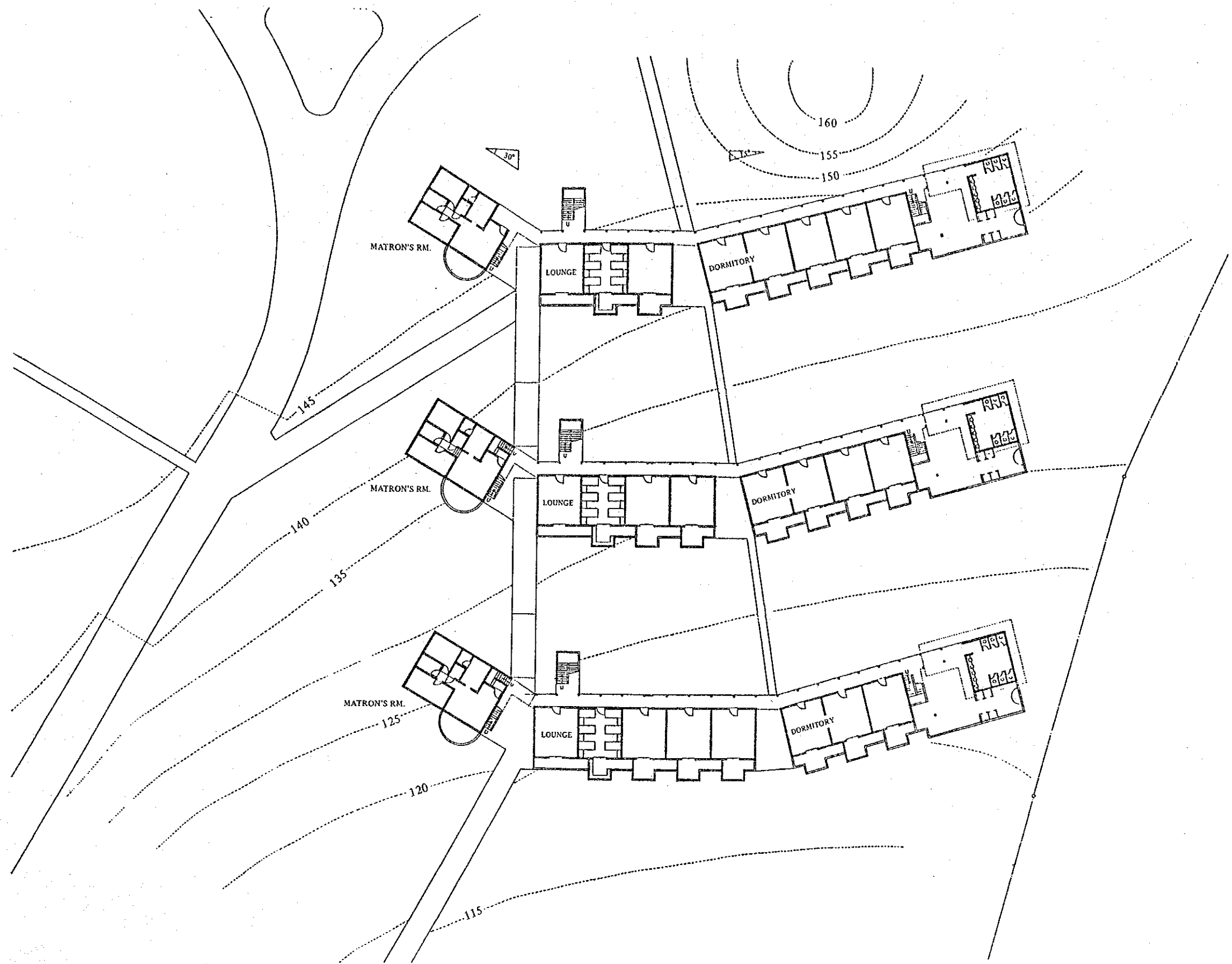
12



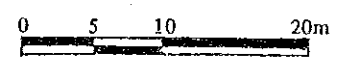
DORMITORY (MALE STUDENTS) 1F · RF PLAN

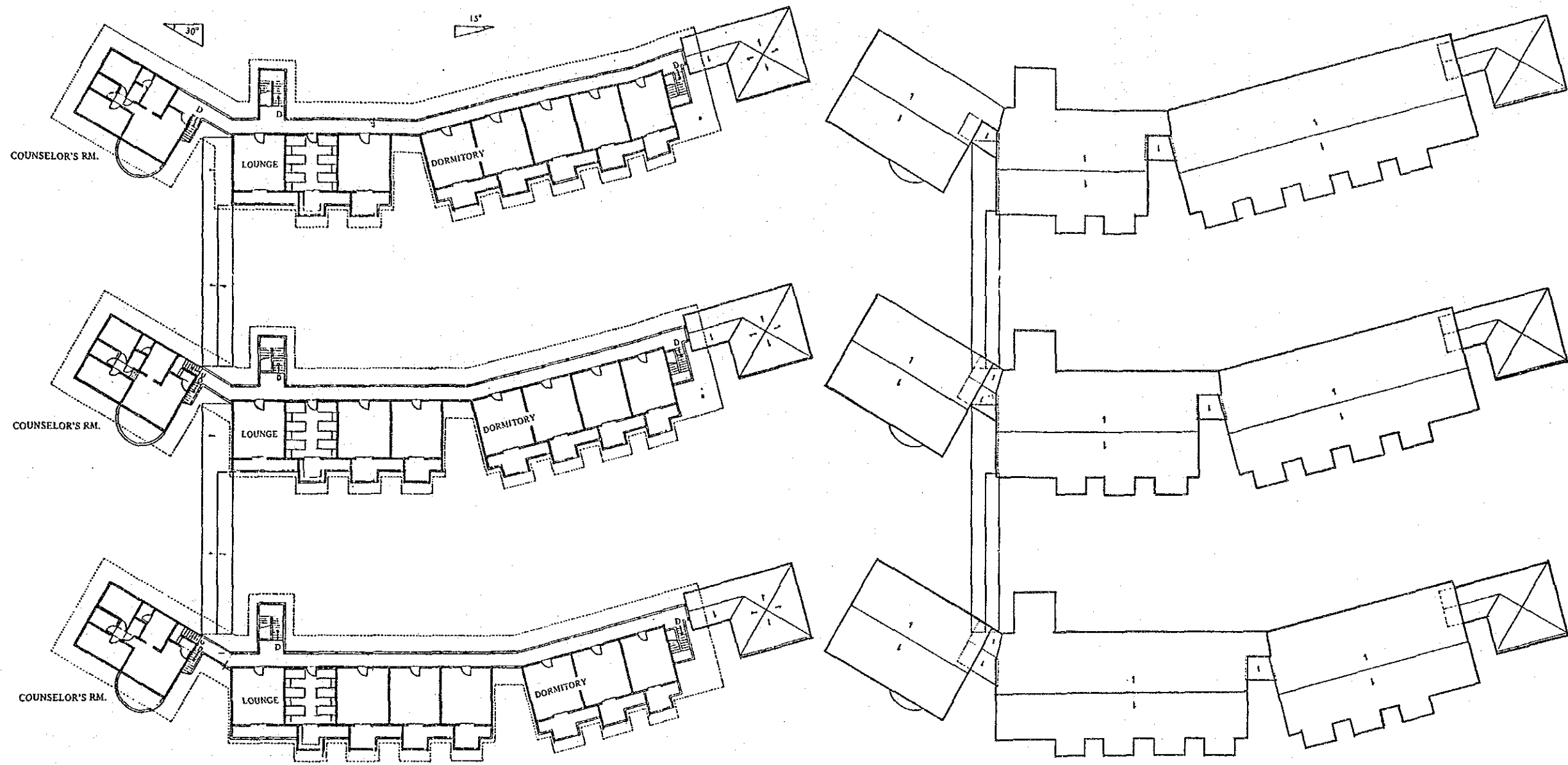
0 5 10 20m

13



DORMITORY (FEMALE STUDENTS) GF PLAN

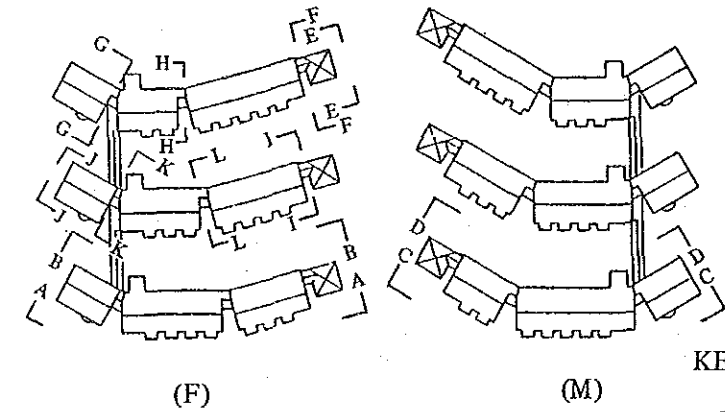
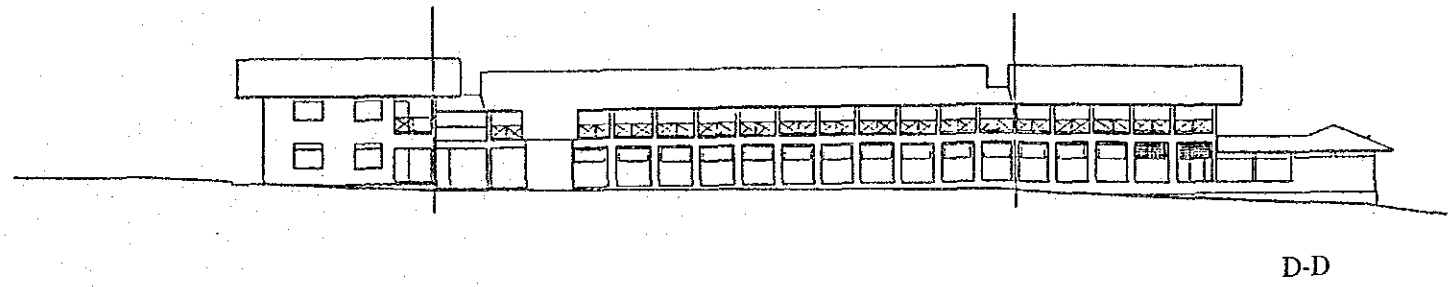
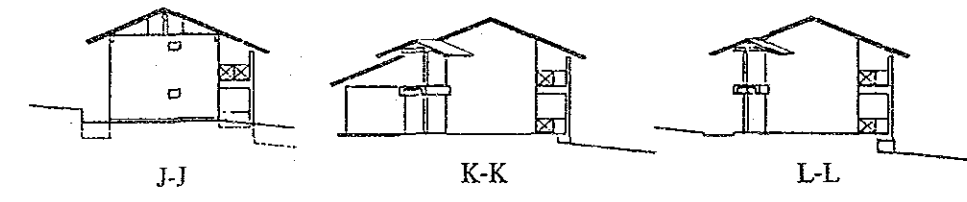
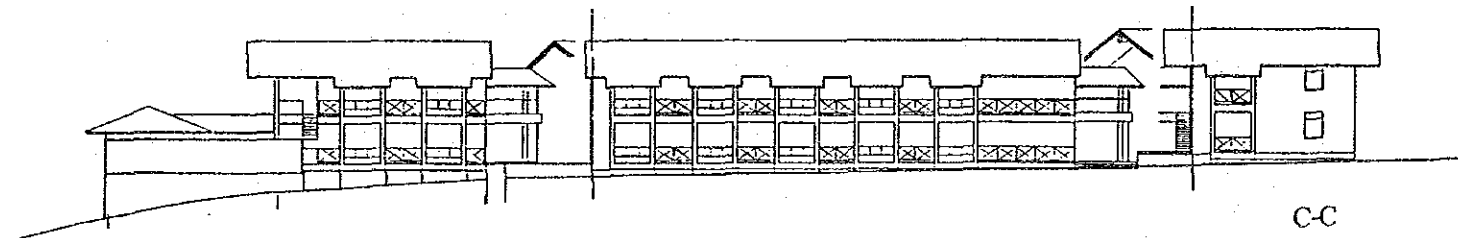
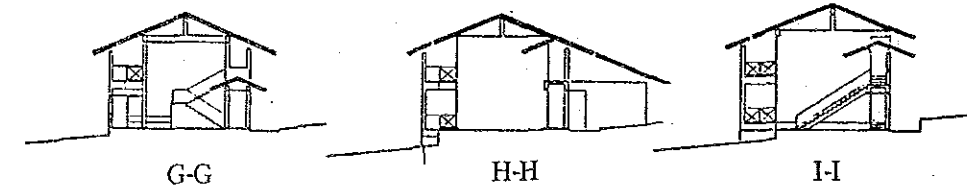
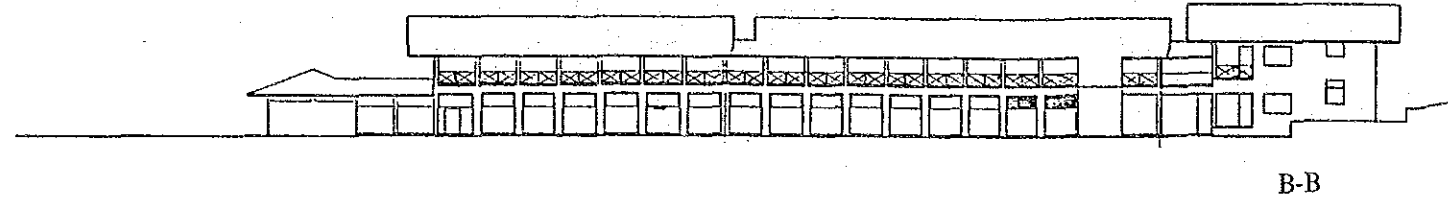
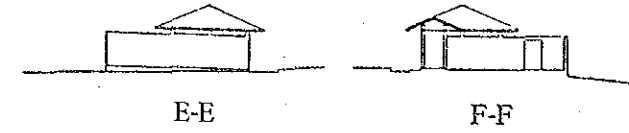
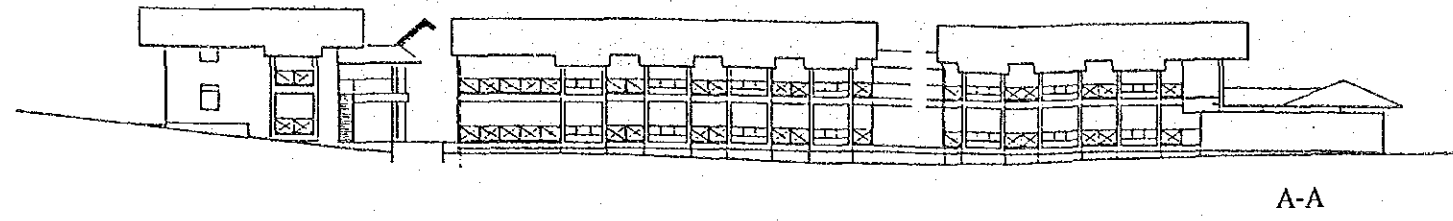




DORMITORY (FEMALE STUDENTS) 1F · RF PLAN

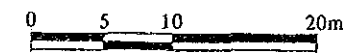
0 5 10 20m

15

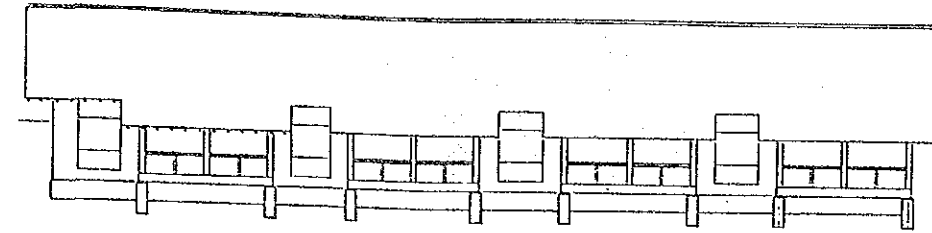
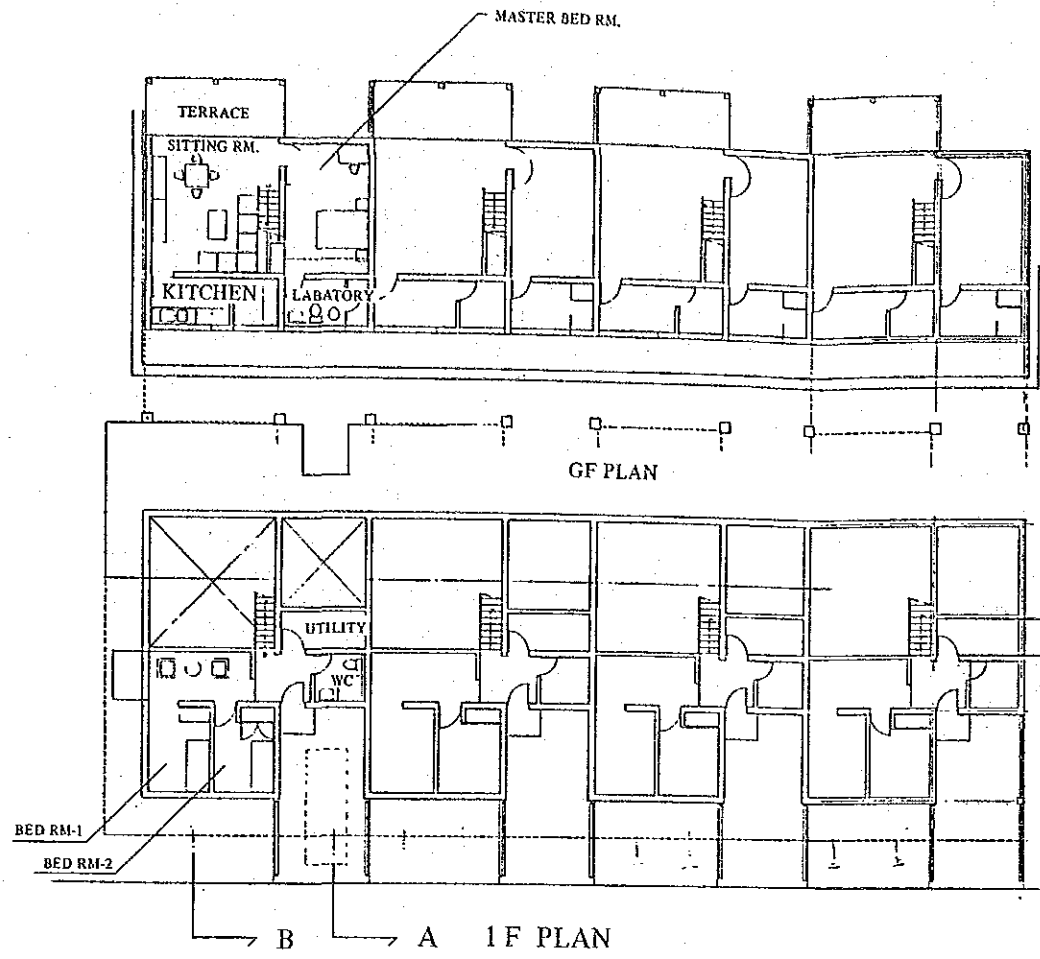


KEY PLAN

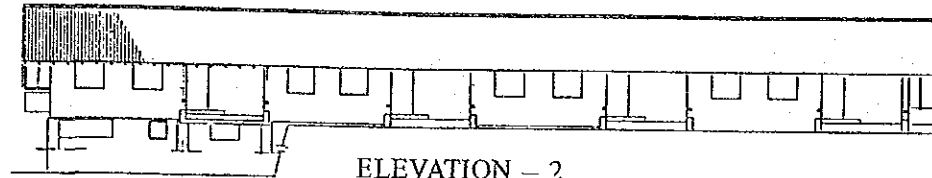
DORMITORY ELEVATION · SECTION



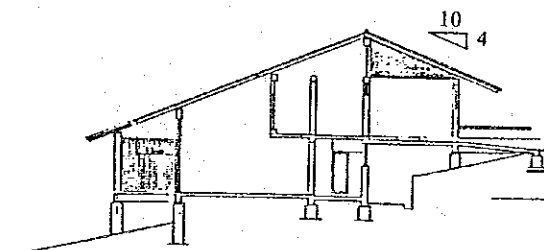
16



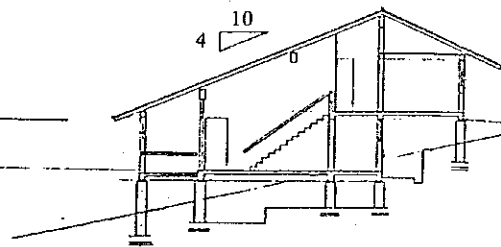
ELEVATION - 1



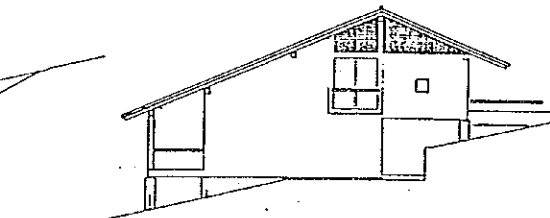
ELEVATION - 2



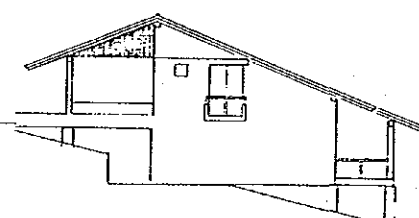
SECTION - A



SECTION - B



ELEVATION - 3

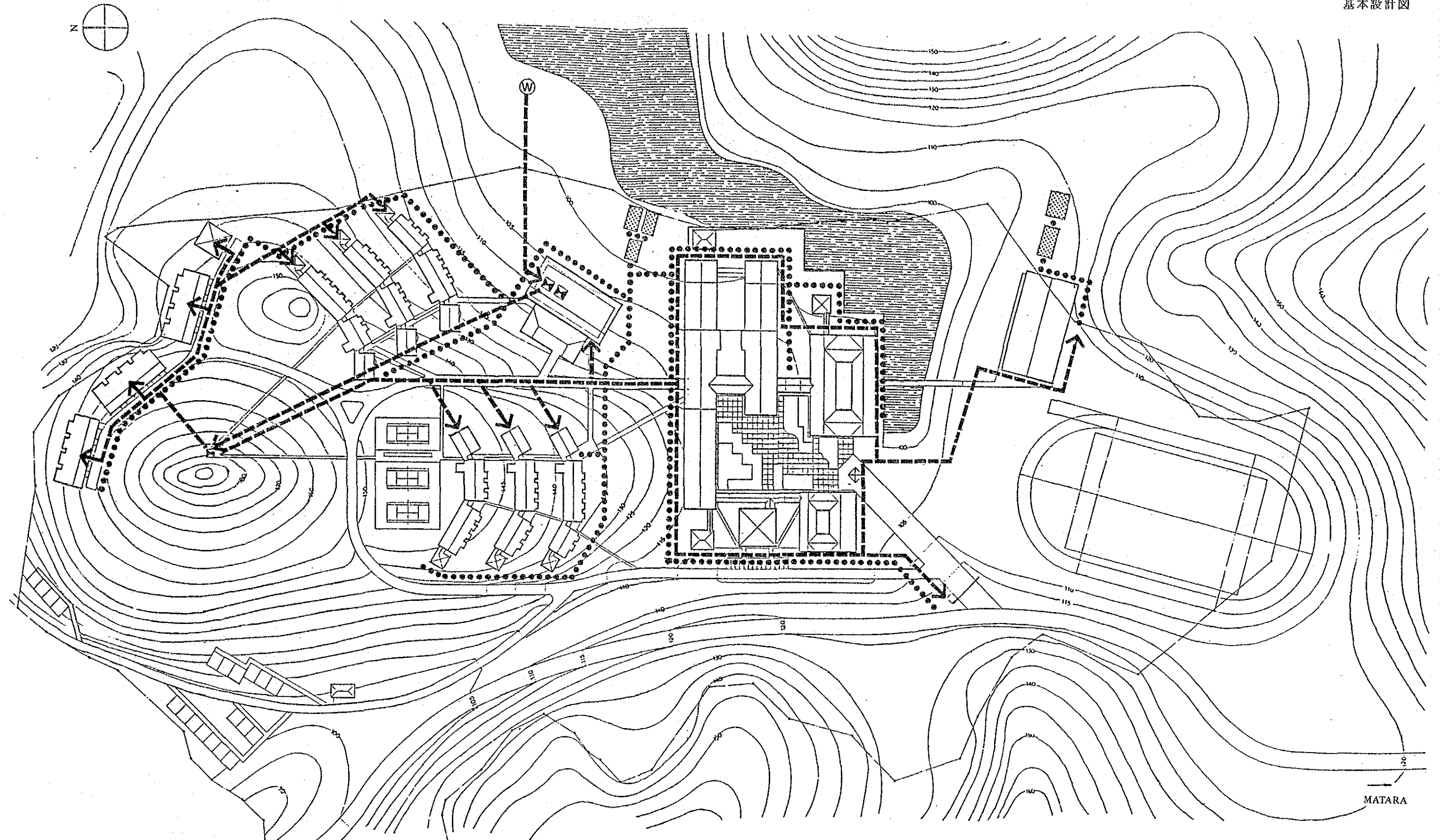


ELEVATION - 4

SENIOR STAFF HOUSE



17



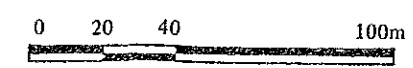
AKURESSA

MATARA

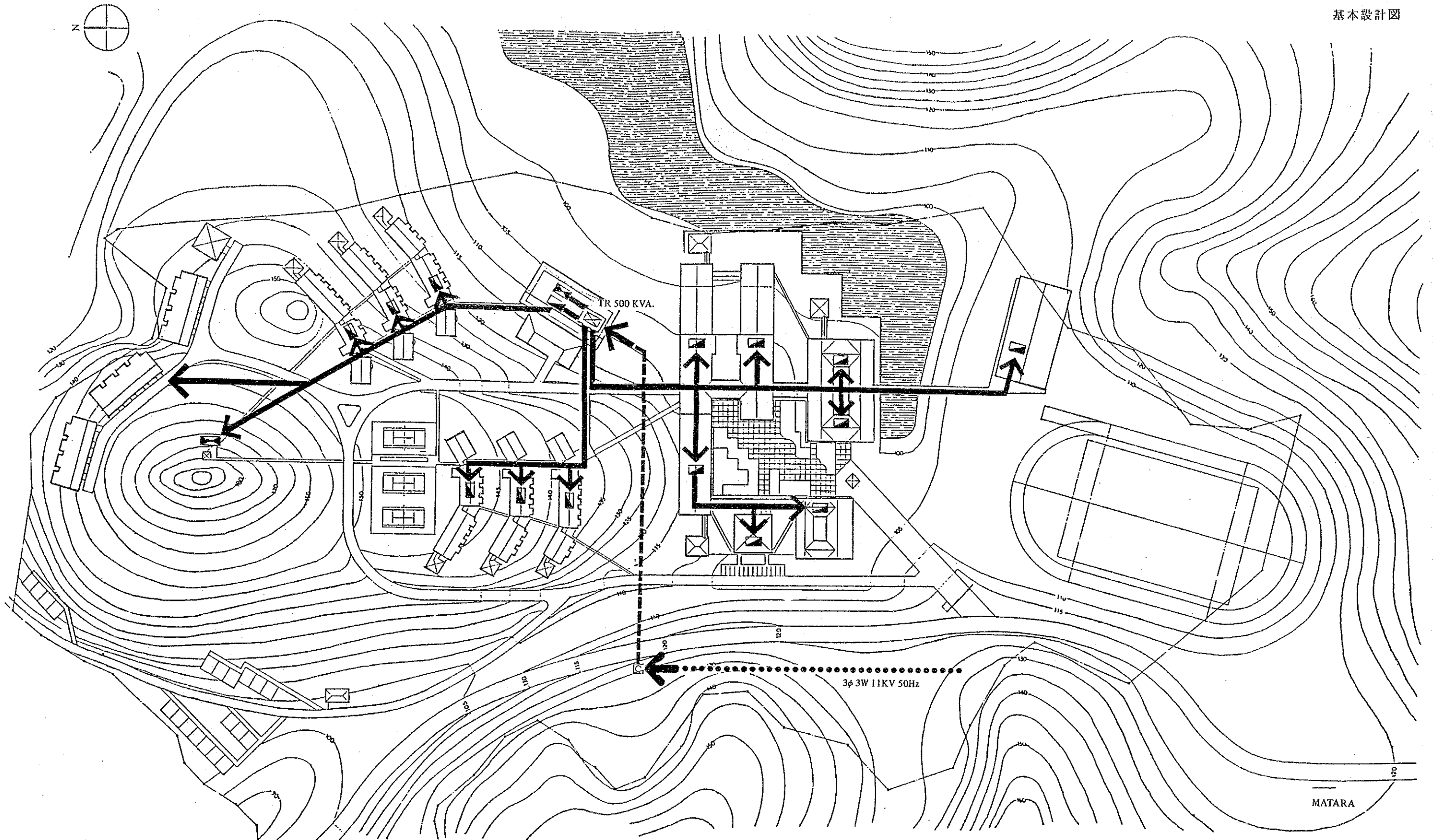
LEGEND

	WATER SUPPLY PIPE
	DRAINAGE PIPE
	DEEP WELL
	WATER TANK
	SOAK WAY

WATER SUPPLY SYSTEM & DRAINAGE SYSTEM



18

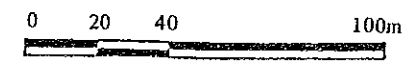


AKURESSA

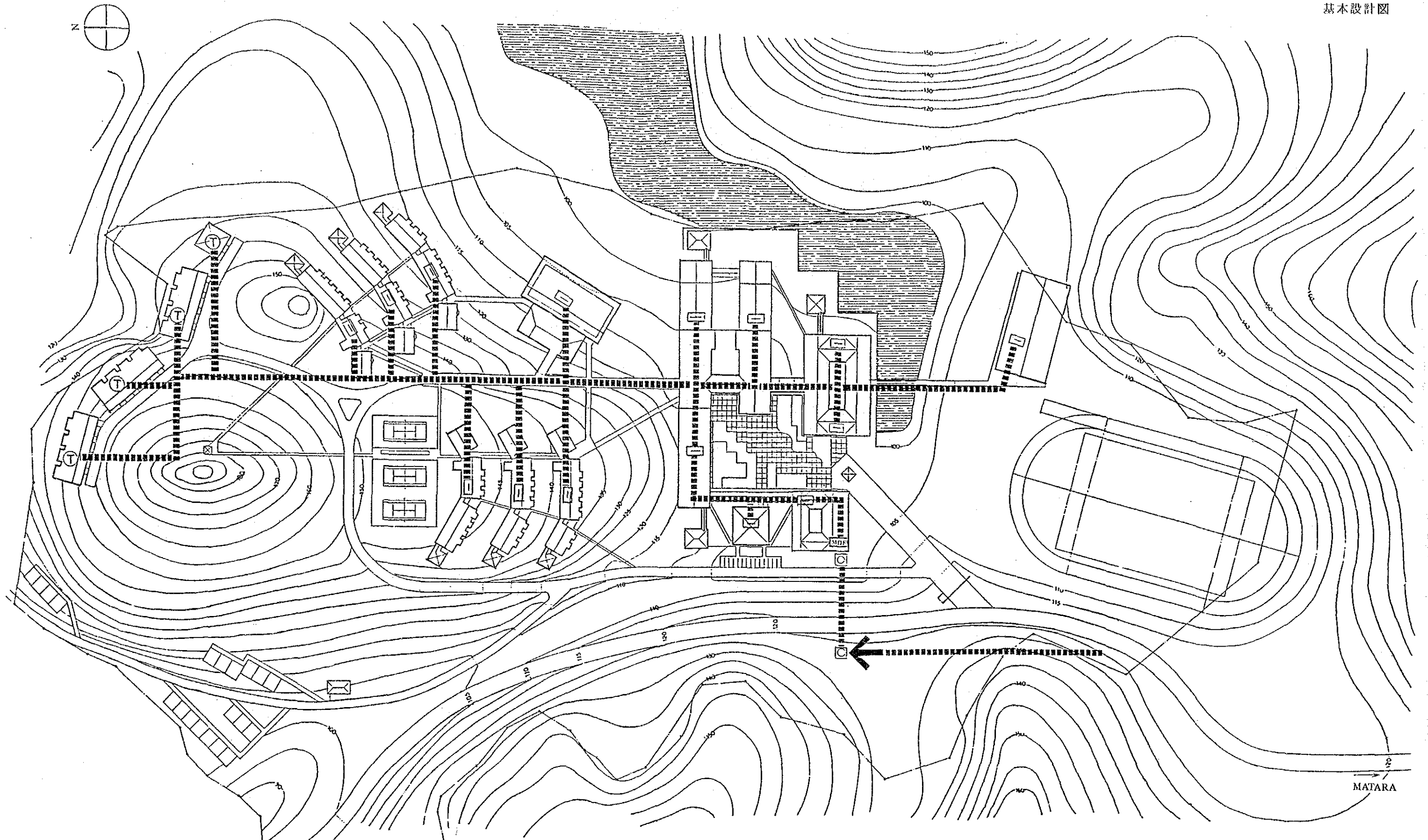
LEGEND

	ELECTRIC SUPPLY (AERIAL LINE) (JAPAN)
	ELECTRIC SUPPLY (UNDER GROUND) (JAPAN)
	ELECTRIC SUPPLY (SRILANKA)
	TRANSFORMER
	LIGHTING PANEL
	MOTOR CONTROL PANEL
	HAND HOLE

ELECTRICAL SYSTEM



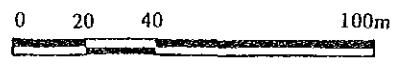
19



LEGEND

- TELEPHONE LINE (JAPAN)
- MDF MAIN DISTRIBUTION FRAME
- ▬ TERMINAL BOARD
- ⊙ TELEPHONE SET
- ⊕ HAND HOLE

TELEPHONE SYSTEM



20

第6章 事業実施計画

6-1 実施主体

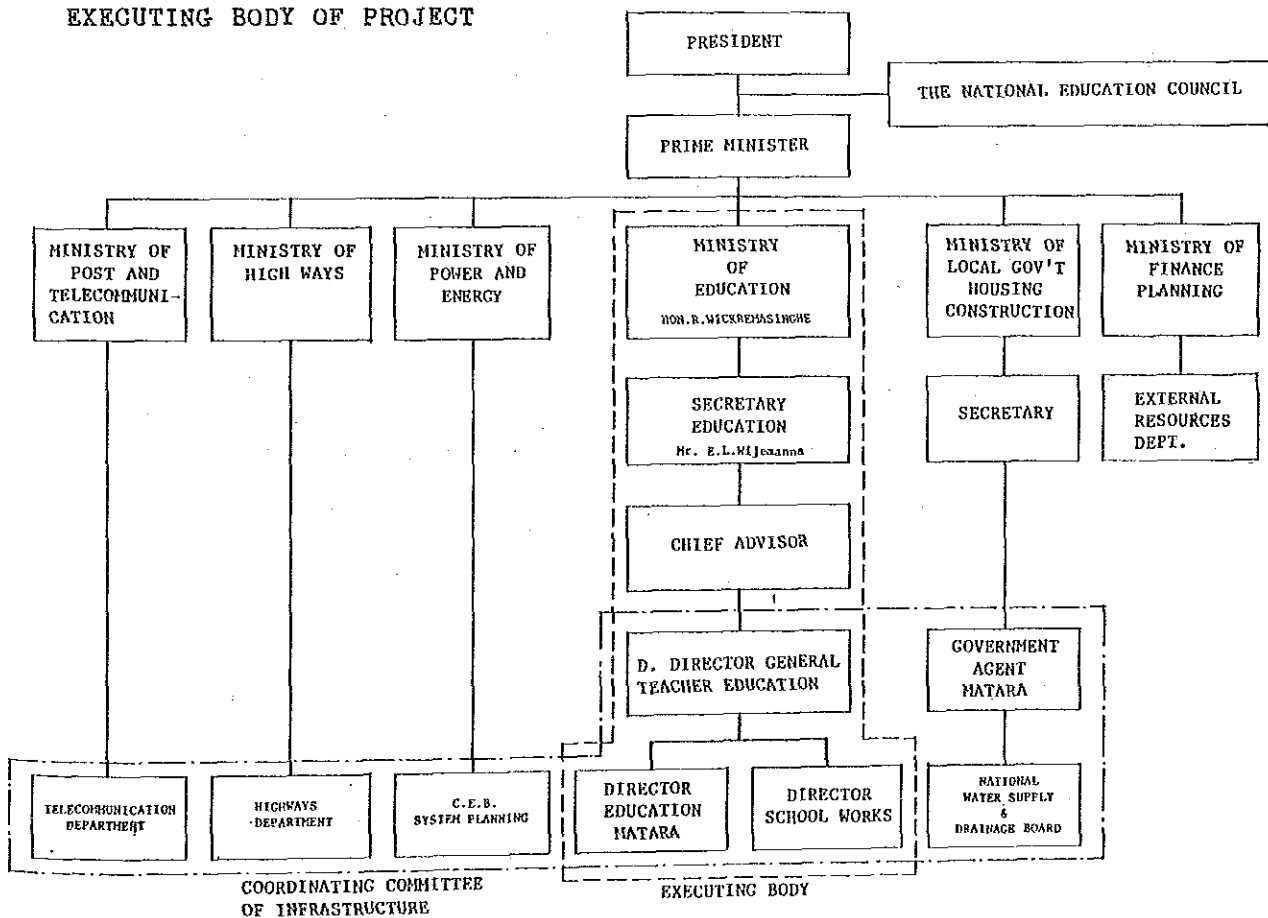
本教員養成学校の計画・実施にあたってのスリランカ国側の所轄官庁は、教育省（M O E）であり、その次官（Secretary, Mr. E. L. WIJEMANNE）を総括責任者とする実行委員会により統轄され、このもとに各関係省庁の担当者レベルが委員会に参加する。

尚、スリランカ国の海外援助担当窓口としては大蔵省（M O F P）内部のDepartment of External Resourcesが二国間取極に関する業務を行うこととなる。

本学校建設のための実施設計・監理契約、工事契約、銀行取極などの無償資金協力方式に基づく契約諸手続きに関しては、教育省次官が契約当事者となり実質業務を行う。

教育省は本プロジェクト建設のための基幹工事整備費を含めRS4,500,000を予算化している。（85年度予算）

EXECUTING BODY OF PROJECT



6-2 施工計画

6-2-1 施工計画

建設計画実施決定の交換公文締結後、選定したコンサルタントと実行委員会は、基本設計方針に沿った実施設計、入札、工事契約業務、施工に関わる詳細討議、意見調整を充分に行う必要がある。

本学校の建設実施にあたっては、

- ・マクラ市から予定地までの道路整備
- ・予定地内道路の付け替え
- ・予定地内南側丘陵地の造成・整地
- ・電力引込

が建設工事着工以前に確実にスリランカ側で実行される必要がある。

施工計画については、日本側担当者と実行委員会との間で実施工程を検討し、両国工事負担範囲、接続等の適切な着手時期を策定し、建設資材の調達、現場搬入、施工取付、資機材の試運転調整への先方技師立会い等、綿密な工程の設定が必要である。

着工時期の関係で雨期（5月～10月）に土工事、基礎工事を実施することになる場合は、土の移動を最小限に留める計画と施工の容易な基礎構造を計画する必要がある。

又、日本からの調達資機材の現場到着迄の期間と工事工程の取合いや、専門技能工の適切な派遣時期を考慮するなど、手待ち、手戻りのない工程計画とし、予定期間内にバランスよく資材・人材を投入する工程計画が必要となる。

6-2-2 監理計画

日本政府無償資金協力の方針に基づき、コンサルタントは基本設計の主旨を踏まえ、実施設計図書業務・監理業務について一貫したプロジェクト遂行チームを編成し、関係各部の意見調整を計り、順調な施設完成を目指す必要がある。

施工監理段階に於いて、コンサルタントは本教員養成学校工事現場に適切な技術を備えた現場常駐監理者を派遣し、工事指導、連絡を行う他、工事進捗に合わせて必要時期に短期間、専門技術者を出張させ、検査、立会い、施工指導等行う必要がある。

1) 監理計画の主要方針

- ・ 両国関係機関、担当者と密接な連絡・報告を行い、遅滞なく建設工程に基づく施設の完成を目指す。
- ・ 設計図書に忠実な施設建設の為、施工関係者に対して適切・迅速な指導・助言を行う。
- ・ 先方国建設生産の育成を念頭におき、可能な限り現地資機材による現地工法の採用を優先させる。
- ・ 施工方法・施工技術等に関しては技術移転を行う姿勢で臨み、無償協力プロジェクトとしての効果を発揮させる。
- ・ 施設完成引渡し後の先方保守管理に対し、適切な助言と指導を行い、円滑な運営をうながす。

2) 施工管理業務内容

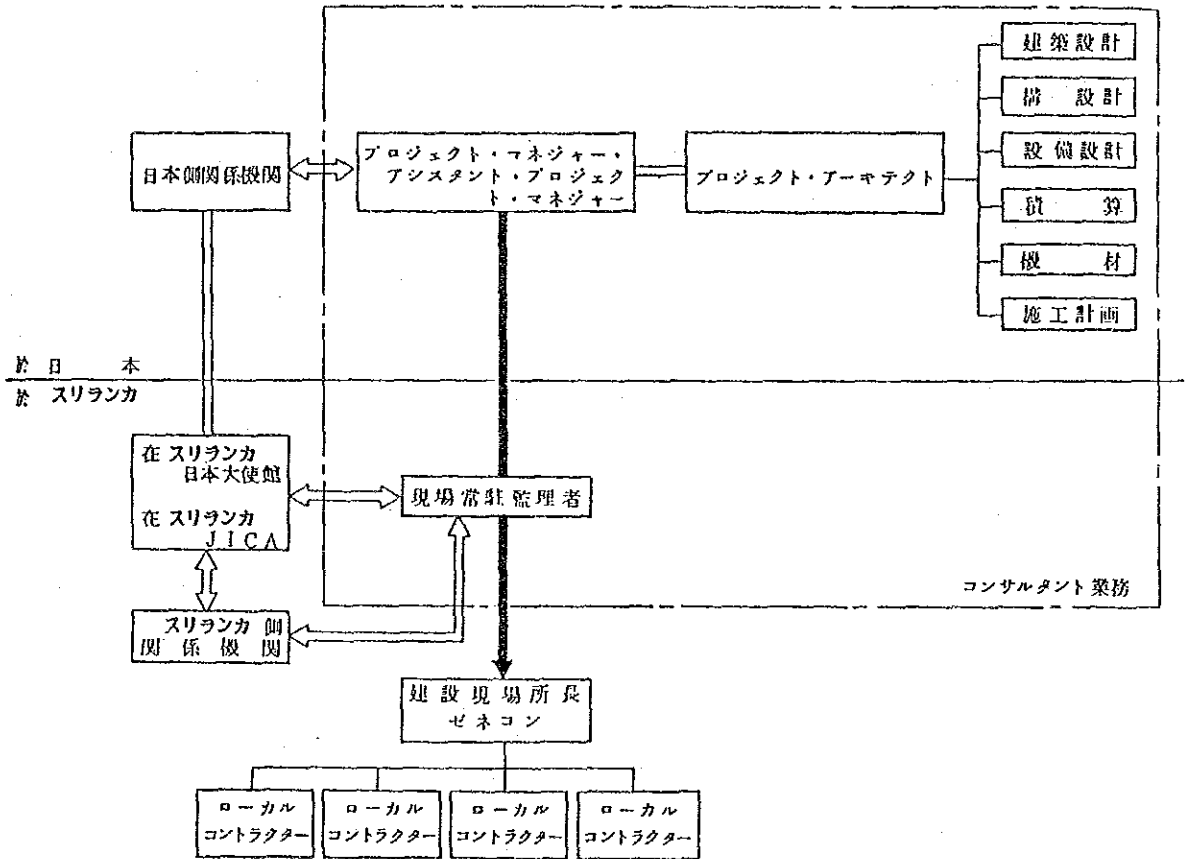
(1) 工事契約に関する協力

工事施工者の選定、工事契約方式決定、工事契約書案の作成、工事内訳明細書内容調査、工事契約立会い。

(2) 施工図等の検査及び承認

工事施工者から提出される施工図、材料、仕上見本、設備資機材の検査。

施工監理体制



(3) 工事の指導

工事計画、工程などの検討、工事施工者を指導、施主への工事進捗状況報告。

(4) 支払承認手続の協力

工事中及び工事完成後に支払われる工事費に関する請求書等の内容検討及び手続の協力。

(5) 検査立会い

着工から完成迄の建設中の各出来形に対する検査を行い、工事施工者を指導する。

コンサルタントは、工事が完了し契約条件が遂行されたことを確認の上、契約の目的物の引渡しに立会い、施主の受領承認を得、業務を完了する。尚、本プロジェクト建設中の進捗状況、支払手続、完成引渡しに関する必要諸事項を日本政府関係者に報告する。

6-3 工事範囲

本教員養成学校建設に関する日本側負担工事範囲とスリランカ側負担工事範囲の概要は、下記の通りと考えられる。

6-3-1 日本政府側負担工事

1) 施設関係

- a) 管理棟
- b) 教育学習棟
- c) 大教室棟
- d) 福利・厚生棟
- e) 学生宿舎
- f) 食堂
- g) 体育館
- h) 職員宿舎(1部)

2) 基幹工事関係

- a) 高架水槽
- b) 給水設備
- c) さく泉工事
- d) 消火栓ポンプ
- e) 受変電設備
- f) 電話交換機設備

3) 外構工事関係

- a) 400Mトラック
- b) 構内道路・駐車場舗装
- c) 構内排水
- d) 屋外灯
- e) 排水、浄化槽設備

4) 教育機材・備品一式

6-3-2 スリランカ政府側負担工事並びに業務分担

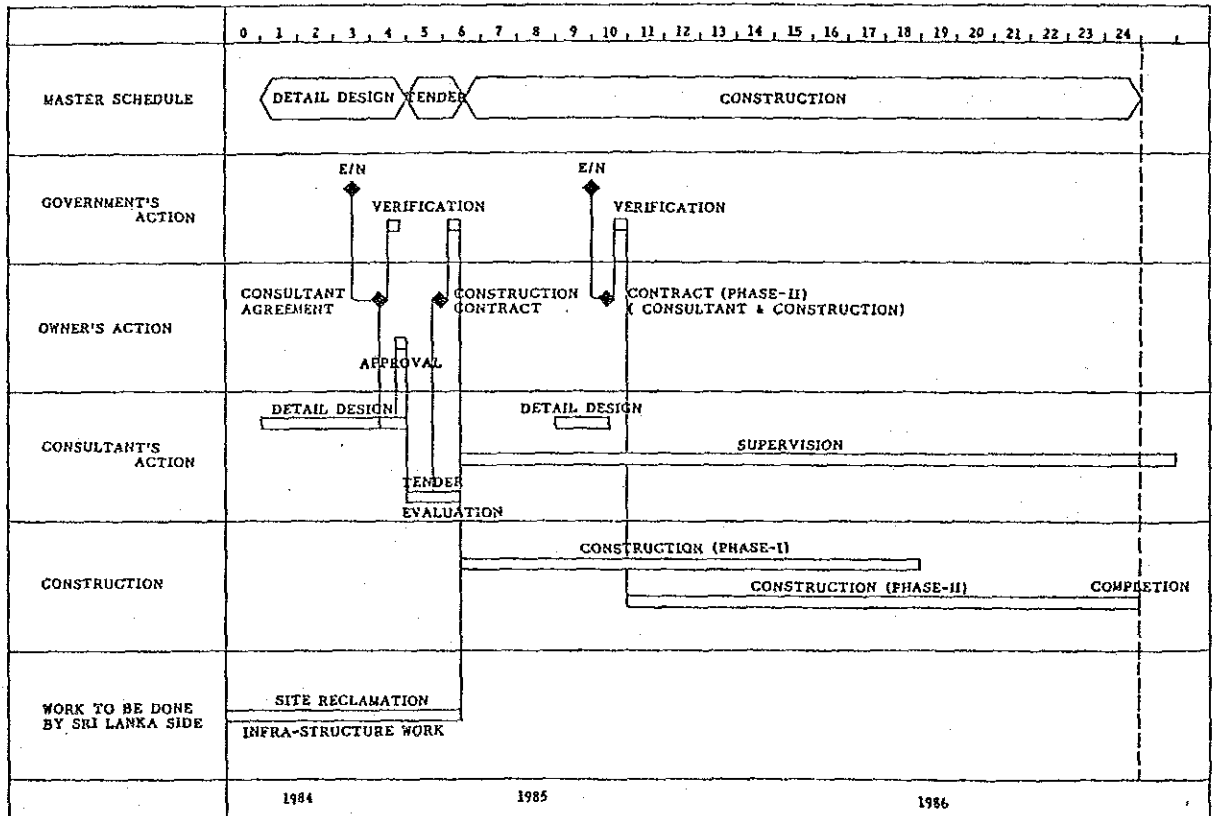
負担工事

- 1) 本学校建設に必要な敷地の確保
- 2) 敷地内縦断道路の付け替え
- 3) 地質調査
- 4) 敷地内南側丘陵地の造成・整地工事
- 5) マタラ市から敷地予定地迄の道路整備
- 6) 職員宿舎
- 7) 基幹工事関係
 - ・電力引込み 11KV 300KVA
 - ・電話引込み
- 8) フェンス
- 9) 什器、備品関係
 - 日本側工事負担範囲外の什器、備品、家具及びカーテン等
- 10) 造園・植樹工事
- 11) スポーツ施設関係
 - ・日本側負担範囲外のスポーツ施設

業務分担並びに負担費用

- 1) 本学校計画実施に必要な技術関係情報の提供
- 2) 諸費用の負担
 - ・銀行取決めに伴う費用
 - ・電力・電話引込みに伴う費用
 - ・免税手続きに伴う費用
- 3) 施設及び機材の維持管理費用の負担
- 4) 通関及び内陸輸送に関わる迅速な措置
- 5) 認証された契約に基づき、計画実施にたずさわる日本人に対して、スリランカ国内で課せられる関税、国内税、その他の財政課徴金に対する免税手続き
- 6) 全上の日本人が業務を遂行する為のスリランカ国への入国、滞在に必要な便宜を与えること。
- 7) 綿密なる人材配備計画のもとに本計画の運営・管理に必要とされるスタッフを配備すること。

EXECUTION SCHEDULE



6-4 実施スケジュール

本学校計画の実施スケジュールは、日本政府の無償資金協力に関して両国政府間で交換公文締結後、大別して次の3つの段階に分けられる。

実施設計

基本設計報告書をもとに入札用図書を作成する。この間スリランカ側関係機関と、事前・中間・最終の打合わせが必要となる。所要期間は約4ヶ月。

入 札

入札は入札公示、入札業者の資格審査、積算と査定、契約署名を行うまでの期間であり、実施設計終了後約2ヶ月を必要とする。

建 設

工事契約締結後、日本政府の認証を経て工事に着手する。本学校の規模、施設内容から判断し、建設資材の調達が順調に行われ、事前の準備工事やスリランカ側の順調な造成工事の完了を期待すれば、約18.5ヶ月と予想される。

6-5 資機材調達計画

本学校建設計画の実施に当り、1984年8月の基本設計調査時に市場調査を行った。その結果は、巻末資料（スリランカと日本のコスト比較）で示す通りである。建設資機材の調達は、建設予定地のロケーション、コストの低減、施設維持管理の容易性、施設内容から判断し、可能な限り、現地調達可能資機材を採用する。しかし現地調達資機材は輸入品が多く、コスト、品質、数量等につき考慮すれば、本学校建設に使用出来る現地資機材は下記の通りである。

	現地調達予定資機材	日本及び第三国からの調達予定資機材
建築工事	骨材（砂、砂石） セメント コンクリートブロック レンガ 石・タイル テラゾータイル 大波スレート 屋根瓦 木材	セメント 鉄筋 鉄骨 型枠材 防水材 金属建具・建具金物 木製建具 ガラス 塗料 内装材 特殊加工品
換気工事	ビニール管	換気扇 鉄管・鉄板
給排水衛生工事	ビニール管 コンクリート管 衛生陶器（一部）	衛生陶器 バルブ・配管類 ポンプ
電気工事	ビニール管	変圧器 配電盤 電話交換機 電線・ケーブル 照明器具 弱電機器

第7章 運営維持管理計画

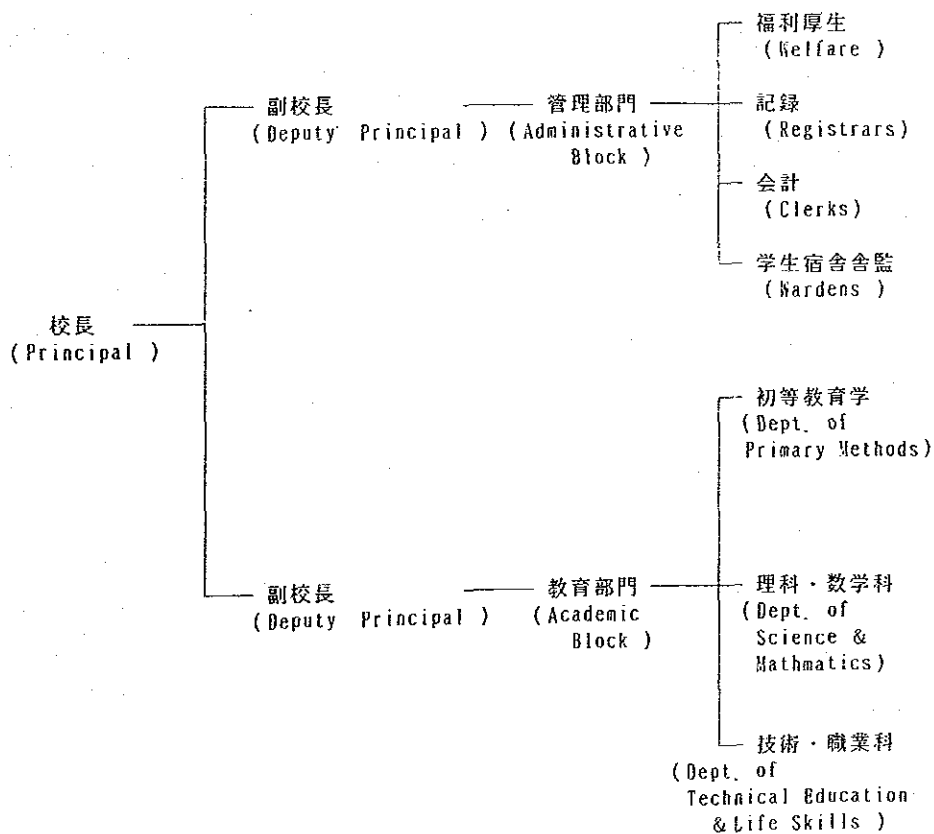
無償資金協力の効果は、単に施設・資機材の供与だけでなく、施設引渡し後、先方国の自助努力による円滑な運営と目標に沿った活動が為されてこそ、初めて発揮されるものである。本教員養成学校に於いても、教育省が構想としている教員養成を円滑に推進し、質・量ともに満足のゆく結果を生み出す為には、的確な運営管理体制と維持管理体制を確立する必要がある。

7-1 運営維持管理体制

本学校の実施主体は教育省（MOE）であり、教員省の計画では500名の生徒数（1年次250名）に対し、校長1名を含む管理職員13名、教職員（Academic Staff）71名と技術職員・下級職員63名の計147名にて運営維持していく予定である。

教育省は本施設を同国教員養成学校のモデル校と考えており、職員の確保は、管理職員については現在教育省本省にて働いている教職経験豊富なスタッフより選抜し、教職員は大学院教育学の学位を持ち、教職員の経験のある者等から募集される予定である。

運営管理体制



教職員 (Academic staff) 配置計画

学 科	教 科	教職員数
初等教育学	教育原理	17
	教育心理学	
人文社会学	人文学	4
	宗教	6
	社会	4
	国語	6
理科・数学	理科	5
	数学	8
一 般	英語	4
	保健・体育	5
	芸術 — 美術	3
	音楽	3
	ダンス	3
技術・職業	農業	1
	家庭科	1
	木工・金属加工	1
計		71

7-2 運営維持管理計画

建物は、維持管理の容易さを配慮し計画されることは無論であるが、建物管理・設備機器並びに教育機材の運転取扱い・保守管理方法については、引渡し時点で説明を行う。方法としては、本学校の各部門管理担当者、メンテナンス技術者に対し、施設・資機材の取扱維持管理要領書を提示説明し、デモンストレーションを行うなどして適切な維持管理の方法を提案・指導する。施設建物管理方法については、使用方法、清掃保守方法を指導し、設備機器及び教育機材は使用方法・適正運転時間・保守点検方法を指導する。施設・資機材の修理・補修・備品調達が必要に応じ、引渡し後の監理担当者、工事担当者、代理店等の連絡先を提示する。

以上の維持管理方法に基づき、カリキュラムや施設・機器の利用時間を併せ、本学校の機能を有効に発揮できる維持管理計画を策定し、かつその費用を教育省にて、年次ごとに予算措置する必要がある。

7-3 運営維持管理費用

本学校の運営に必要な経費、施設維持管理費、施設運転経費などは、教育省予算にて賄われる予定である。

調査及び収集資料の分析から、初年度からの年間維持経費を試算すると次のように見込まれる。

人件費	(給料・賃金)	2,635,620 RS	26,356,200円
施設運転光熱費	(平均需要率60%)	1,064,000	10,640,000
施設・機材保守管理費		600,000	6,000,000
消耗品・雑費	(10%)	430,380	4,303,800
計		4,730,000	47,300,000

第8章 事業評価

スリランカ国教員養成学校建設計画プロジェクト実施による社会・経済評価を行うと以下の通りである。

1) 社会、経済評価

1977年7月に成立したジャヤワルダナ政権は、経済の沈滞を打開するため、開放的、成長志向を基本的な特徴とする自由主義経済政策により、経済開発重視の積極的政策の推進を計ってきた。その結果78年には8.2%と高い経済成長率を達成した。

今後とも、経済開発重視の積極的政策を推進していく同国にとって、公共投資と共に、広範なマンパワーの開発、専門分野の人材育成が緊急の課題となっている。

しかし、広範なマンパワーの開発、専門分野の人材育成のベースとなる教育水準が低下してきており、教育水準の向上が重要な問題となっている。

この問題解消に対し、スリランカ国政府は教育制度の改善と併せ、初等・中等学校教員の質的向上を目指した新制教員養成学校設立の計画をたて教育水準向上を計ろうとしており、人材育成を達成する上で非常に有効な手段と評価できる。

初等・中等学校の現職代用教員の再教育の場である既存教員学校を新卒者を対象とした新制教育養成学校に改組することは、新規採用教員の量的・質的確保を目指すものであり、人材育成の基となる初等・中等学校の教育水準向上を計るものである。

その新制教員養成学校のモデル校と位置づけられている本プロジェクトは、1986年10月予定の開校後、1989年より毎年250名の新規教員を送り出すこととなる。これは今後初等・中等教育のリーダ的存在となるべき新制教員養成学校卒業教員の10%を占め、本学校の設立が初等・中等学校の教育水準向上に与える影響は大きいと評価できる。

本教員養成学校の予定地は、同国南部マクラ地区に位置しており全寮制による全人格的教育を実施するに適した環境にある。また予定地が首都より離れておりデモンストレーション効果が多少薄れるかも知れないが、スリランカ南部における教育拠点としてのデモンス

トレーニング効果が期待できる位置にある。

以上の観点から本教員養成学校プロジェクトの評価は、スリランカ国が必要としている緊急な人材育成に対し、的確な計画であり、日本政府無償資金協力により本プロジェクトを実施することの意義は極めて高い。

2) 財政評価

本学校に要する開発費用並びに運営費用につき評価を行うと、下記の通りである。

〈開発費用〉

本学校の施設は、現地の類似施設Pattalagedara 教員学校と比べ規模的に過不足なく、現地の建設資機材、工法を積極的に採用した計画は、現地建設産業の助成も充分達成できると評価されよう。

本学校建設に対するスリランカ国政府負担が予定されている工事範囲は、前述の通りであり、基本設計調査団の見積によると概ね26,200,000RSであった。教育省は基幹工事整備費として1985年予算4,500,000RSを予算化しており、また不足予算はマクラ地区地方交付金等にて補充される計画であり、開発費用の面からは問題ないと評価できる。

〈運営費用〉

本学校の施設計画は、地域の自然条件を十分に考慮し、光熱費等を最小限に押さえる建築計画・設備計画を行っており、適切な施設運営管理が為されれば、維持管理は容易である。本学校の年間維持費概算は、総計約 4,730,000RSで第7章運営維持管理計画に記述した通りであるが、他の新制教員養成学校に比べ教職員の数が多くその分運営費用が大きくなっている。本学校の管理職員は、第7章で記述した通り、現在教育省本省に働いている教職経験豊富なスタッフより選抜される計画であり、現在教育省が支払っている給与を本学校運営費用に移行すればよい。しかし教職員、技術職員・下級職員の年間給与分2,356,140RSの年次毎予算措置が必要である。

3) 運営管理体制評価

本学校の運営管理体制は第7章で述べた通り、校長・副校長を中心に管理部門と教育部門

とで構成されており、本学校のプログラムを充分実施しうるものといえる。

第9章 提言

スリランカ国の経済・社会開発に人材育成は不可欠であり、初等・中等教育の質的向上の果たす役割は極めて大きく、これに携わる教員を養成することは急務であり、我が国の無償資金協力による本教員養成学校設立の効果が期待されるが、その教員養成効果を着実にあげてゆく為には、次に掲げるようなスリランカ側の自助努力が不可欠である。

1) 運営組織の確立

本学校の運営は教育省により選抜されたスタッフにて実施される計画であるが、早期にスタッフの採用を行い運営組織を確立し、養成計画の詳細決定を行い施設設計内容を熟知させ、施設建設完成後、直ちに円滑な運営が行われるよう準備体制が必要である。

2) 運営予算措置

本学校建設工事に係わるスリランカ側負担工事費及び施設引渡し後の運営費の予算確保が本計画実施には極めて重要な条件である。特に、本学校の維持・管理には年間約4,730,000 RSが必要と見積られるが、人件費の比重が高くスリランカ政府側にて運営予算を確保する必要がある。

3) 施設保守

建物の保守、設備機器・教育機材の操作・点検を担当する技師を建物引渡しまでに選任し、建設工事期間中に建物保守の方法や設備機器・教育機材の操作・点検などに精通させ、保守点検体制を確立することが望まれる。

4) 新制教員養成学校の全体計画

新制教員養成学校10校における教員養成の全体計画、カリキュラムの全体計画、養成水準の設定、教材の研究・開発の全体計画等の策定が新規教員の質的向上に不可欠であり、かつ地域格差の是正にも繋がるので全体計画の策定が望まれる。また代用教員の再教育を受け持つ既存教員学校との教育レベル格差についての策定も教員の質的水準の均一化に繋がるため望まれる。さらに新制教員学校の教員スタッフの養成基幹であり且つ高等教育を

受け持つ高等教育省（MOHE）との関係により初めて一貫性のある教育制度が確立でき、教育水準の向上にも繋がるので、教育省・高等教育省共同による一貫性のある全体計画の策定が望まれる。

5) 代用教員の採用中止

1984年10月より四年次に亘り順次開校予定の新制教員学校設立計画が整備されるまで、教員不足による代用教員の採用は、続けざるをえない状況である。既に述べてきた通り、教育水準向上に代用教員解消は必要不可欠のことであり、新制教員学校が整備されるまで採用せざるをえない代用教員は、既存教員学校の定員増、週末や休暇期間を利用した短期集中教育研修強化等により、解消が望まれる。

この様に、本教員養成学校建設計画が本来の機能を発揮し、年間250名の優秀な教員を養成し、スリランカ国の教育水準向上を推進してゆく為には、ハードな面での無償資金協力による本施設計画の実施とハード及びソフト面でのスリランカ国の積極的な自助努力が結集され初めて結実されるものである。

資料編 I

1. 調査団の派遣
2. ミニッツ
3. 建設予定地関係資料
4. 維持管理運営費内訳
5. 教育機材リスト
6. 類似施設の現況

1. 調査団の派遣

本教員養成学校の計画・設計に当たり、基本設計調査及び確認調査のため、下記調査団が派遣された。

1) 調査団の構成

□ 基本設計調査団(1984年8月11日～8月30日)

団長	福田晴耕	外務省経済協力局無償資金協力課
計画管理	四釜嘉総	国際協力事業団無償資金協力部基本設計課
建築計画	平田恭輔	(株)久米建築事務所
設備計画	中林 茂	〃
機材計画	伊平則夫	〃
積算	安松 茂	〃

□ 確認調査団(1984年10月13日～10月21日)

団長	四釜嘉総	国際協力事業団無償資金協力部基本設計課
建築計画	平田恭輔	(株)久米建築事務所
建築設計	竹内明彦	〃

2) 調査協力者

本件の調査に当たり、下記の方々に御協力頂いた。

□ スリランカ側関係者

・ Department of External Resources (Ministry of Finance & Planning)

Mr. M. A. Mohamed : Director

Mr. Senarat Weerapana : Assistant Director

・ M O E (Ministry of Education)

HON. R. Wickremasinghe : Minister

Mr. E. L. Wijemanne : Secretary

Mr. D. A. Perera : Chief Adviser

Mr. G. Wickramaratne : Deputy Director General
Teacher Education

Mr. W. M. S. L. B. Ratnayake : Director of School Works

Mr. M. M. Premaratne : Director of Education
(Secondary Education)

Mr. N. A. C. Goonatilaka : Chief Education Officer

Mr. N. E. Fernando : Consultant, Teacher College
Curriculum Development Committee
Teacher Education

Mr. K. P. G. Nilame : Education Official & Principal
Designate, College of Education

Mr. K. D. Panroleon : Principal Designate
College of Education

Mrs. R. S. H. Ekanayaka : Chief Education Officer
(Home Science)

Mr. U. M. Abeywardhana : Education Officer
(Agriculture)

・ Government Agent Matara

Mr. Christie Silva : Government Agent Matara

・ The District Minister, Matara

Mr. B. Weerasinghe : Coordinating Officer

・ CBB (Ceylon Electricity Board)

Mr. A. Dantalarayana : Divisional Construction Engineer, Galle

□ 日本側関係者

・ 在スリランカ日本大使館

大鷹 弘 大使

伊丹光則 一等書記官

・ JICAコロンボ事務所

池田嘉弥 所長

3) 調査団行程

□ 基本設計調査(1984年8月11日～8月30日)

日順	月 日	曜 日	行 程	調 査 内 容
1.	8/11	土	10:45 ↓ 17:10 18:00	成田空港発 ↓ TG625 (マニラ経由) バンコク空港着 バンコク ホテル着
2.	8/12	日	10:30 ↓ 12:15 13:30	バンコク空港発 ↓ TG307 コロombo空港着 コロomboギャラクシーホテル着
3.	8/13	月	09:30-10:15 10:30-11:45 15:30-17:00	JICA池田所長と打合せ 日本大使館表敬 MOE表敬
4.	8/14	火	09:00-12:00 14:00-16:00 16:30-19:00	MOE第1回打合せ " 団内打合せ(ホテルにて)
5.	8/15	水	09:00-11:15 11:30-12:00 14:30-16:30 17:00-18:00	MOE第2回打合せ External Resources表敬 MOE第2回打合せ 団内打合せ(ホテルにて)
6.	8/16	木	09:00 10:30-16:30 17:00-18:00	ホテル発 Pattalagedara 教員学校視察 Nalanda Vidyalaya 初等・中等学校 視察 ホテルにて資料整理
7.	8/17	金	09:00-11:00 14:00-16:30 17:00-18:00	MOE第3回打合せ(ミニッツについ て) CDCにて機材打合せ 大使館にてミニッツ打合せ ホテルにて資料整理

日順	月 日	曜 日	行 程	調 査 内 容
8.	8 / 18	土	01:30-02:00 06:00 11:30-13:00 15:00-17:00 17:30	中林団員合流打合せ ホテル発 建設予定地踏査 マタラ・ルフナ大学・マタラ教員学校 視察 ホテル着(マタラ市)
9.	8 / 19	日	10:00-12:00 14:00-15:30	ホテルにて資料整理 Unawatna教員学校視察
10.	8 / 20	月	08:00-10:30 10:30-12:00 14:00-17:00	ベントータ→コロンボ 団地打合せ(ホテルにて) MOE打合せ(インフラ関係について) 大使館にてミニッツについて打合せ
11.	8 / 21	火	10:00-11:00 11:15-11:45 14:00-18:00	MOEにてミニッツ署名 大使館に調査経過報告 JICAに調査経過報告 国内打合せ
12.	8 / 22	水	10:30-11:30 14:00-16:00 16:30-18:00	MOE打合せ(インフラ関係について) COTTE 国会議事堂、総合病院、 初等学校視察 コロンボ市内にて建設市場調査 (福田団長、四釜団員帰国)
13.	8 / 23	木	10:00-11:00 13:00-17:30	MOE打合(機材について) Piliyandala Integral Education Centre視察 コロンボ市内にて建設市場調査
14.	8 / 24	金	08:30 10:00-16:00 17:00	ホテル発 Mirigama, Uyanwatta 教員学校視察 ホテル着

調査団の派遣

日順	月 日	曜 日	行 程	調 査 内 容
15.	8 / 25	土	09:00 10:00-15:00 18:00	ホテル発 Peradeniya大学、Peradeniya教育病院 視察 ホテル着(コロンボ)
16.	8 / 26	日	終日	コロンボ市内にて建設市場調査 資料整理 (中林、伊平団員帰国)
17.	8 / 27	月	09:00-11:00 14:00-18:00	M O E 打合せ コロンボ市内にて建設市場調査
18.	8 / 28	火	09:00-12:00 14:30-17:00	資料整理 大使館及びJICA調査経過報告
19.	8 / 29	水	13:15 ↓ 18:00 19:00	コロンボ空港発 ↓ TG308 バンコク空港着 バンコク ホテル着
20.	8 / 30	木	10:30 ↓ 19:30	バンコク空港発 ↓ TG740 成田空港着

□ 基本設計確認調査(1984年10月13日～10月21日)

日順	月日	曜日	行 程	調 査 内 容
1.	10/13	土	12:45 ↓ 16:50 17:30	成田空港発 ↓ JL717 バンコク空港着 バンコクホテル着
2.	10/14	日	10:30 ↓ 12:15 14:00	バンコク空港発 ↓ TG307 コロombo空港着 コロomboタージホテル着
3.	10/15	月	09:00-10:00 10:00-10:30 11:30-12:00 14:30-16:00 16:30-18:00	JICAドラフトリポート説明及び打合せ 大使館表敬、ドラフトリポート説明 及び打合せ Dept. External Resources表敬、 ドラフトリポート説明 MOE表敬、ドラフトリポート説明 ホテルにてミニッツドラフト作成
4.	10/16	火	08:00-12:30 12:30-14:00 14:30-16:00 17:00-18:00	コロombo→マタラ Government Agent Matara ドラフト リポート説明 建設予定地踏査 ルフナ大学視察
5.	10/17	水	8:00-12:00 14:30-15:30 16:00-17:00	マタラ→コロombo JICAにて団内打合せ MOEにてミニッツ署名、ドラフト リポート打合せ
6.	10/18	木	9:00-12:00 14:30-17:00	JICAにて資料整理 MOEインフラ内容打合せ 大使館にて調査経過報告

調査団の派遣

日順	月 日	曜 日	行 程	調 査 内 容
7.	10/19	金	09:00-12:00 14:00-16:00 16:30-17:00	ホテルにて資料整理 JICAにて調査経過報告 大使館にて調査経過報告
8.	10/20	土	8:30 ↓ 13:30 15:00	コロンボ空港発 ↓ UL422 バンコク空港着 バンコクホテル着
9.	10/21	日	11:00 ↓ 18:00	バンコク空港発 ↓ TG740 成田空港着

2. ミニッツ

Minutes - 1 基本設計調査時(1984年8月21日署名)

Minutes - 2 基本設計確認調査時(1984年10月17日署名)

MINUTES OF DISCUSSION
ON
THE ESTABLISHMENT OF
THE MATARA COLLEGE OF EDUCATION
IN THE DEMOCRATIC SOCIALIST REPUBLIC OF SRI LANKA

In response to the request made by the Government of the Democratic Socialist Republic of Sri Lanka for the Establishment of the Matara College of Education (hereinafter referred to as "The Project"), the Government of Japan has sent, through the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA"), a team headed by Mr. Seiko FUKUDA, Grant Aid Division of Economic Cooperation Department, Ministry of Foreign Affairs, to conduct a basic design study from August 12th to August 29th, 1984. The team has carried out a field survey, held a series of discussions and exchanged views with the authorities concern of the Project.

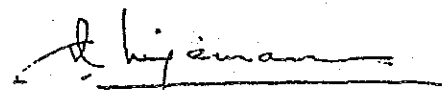
As the result of the study and discussions, both parties have agreed to recommend to their respective Governments to examine the results of the survey attached herewith towards the realization of the Project.

August 21st, 1984

Colombo,

福田 晴耕

Seiko FUKUDA
Team Leader
Basic Design Study Team
JICA



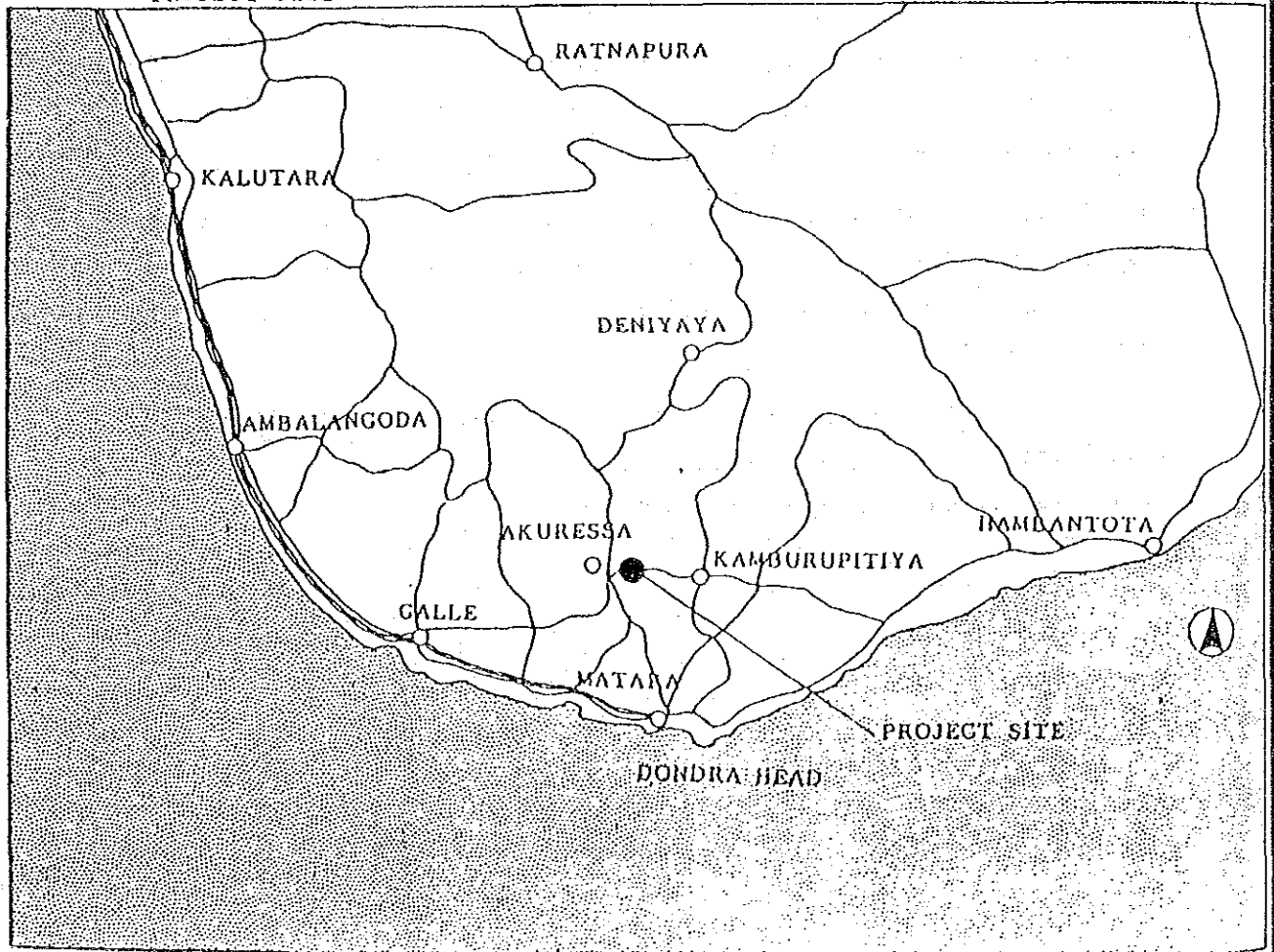
E. I. WIJEMANNE
Secretary
Ministry of Education
The Government of Sri Lanka

ATTACHMENT

1. The Objective of the "the Project" is to provide professional Pre-employment training for teachers and thus contributing to the development of specific teaching skills, and desirable personnel and professional traits in order to upgrade the level of teaching in primary and secondary schools.
2. The purpose of the Construction Project is to provide necessary building, facilities and equipment for the Matara College of Education.
3. The proposed site of the project is located at Matara, the land has been acquired by Sri Lankan side (hereinafter referred to as "the Project Site"). The Project Site location is shown in Annex 1.
4. The Japanese Survey Team will convey to the Government of Japan the desire of Sri Lankan side that the Government of Japan takes necessary measures to co-operate in implementing "the Project" and provides the building and other items listed in Annex 11 within the scope of Japanese economic cooperation programme in grant form.
5. The Government of Sri Lanka has understood Japan's grant aid system explained by the Team which includes a principle of use of Japanese Consultant Firm and Japanese General Contractor for implementation of "the Project".
6. The Government of Sri Lanka will take necessary measures listed in Annex 111 on condition that the Grant assistance by the Government of Japan is extended to "the Project".

88 / 3

PROJECT SITE LOCATION MAP



Handwritten signature or initials.

ANNEX I-I

SITE MAP

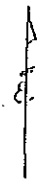
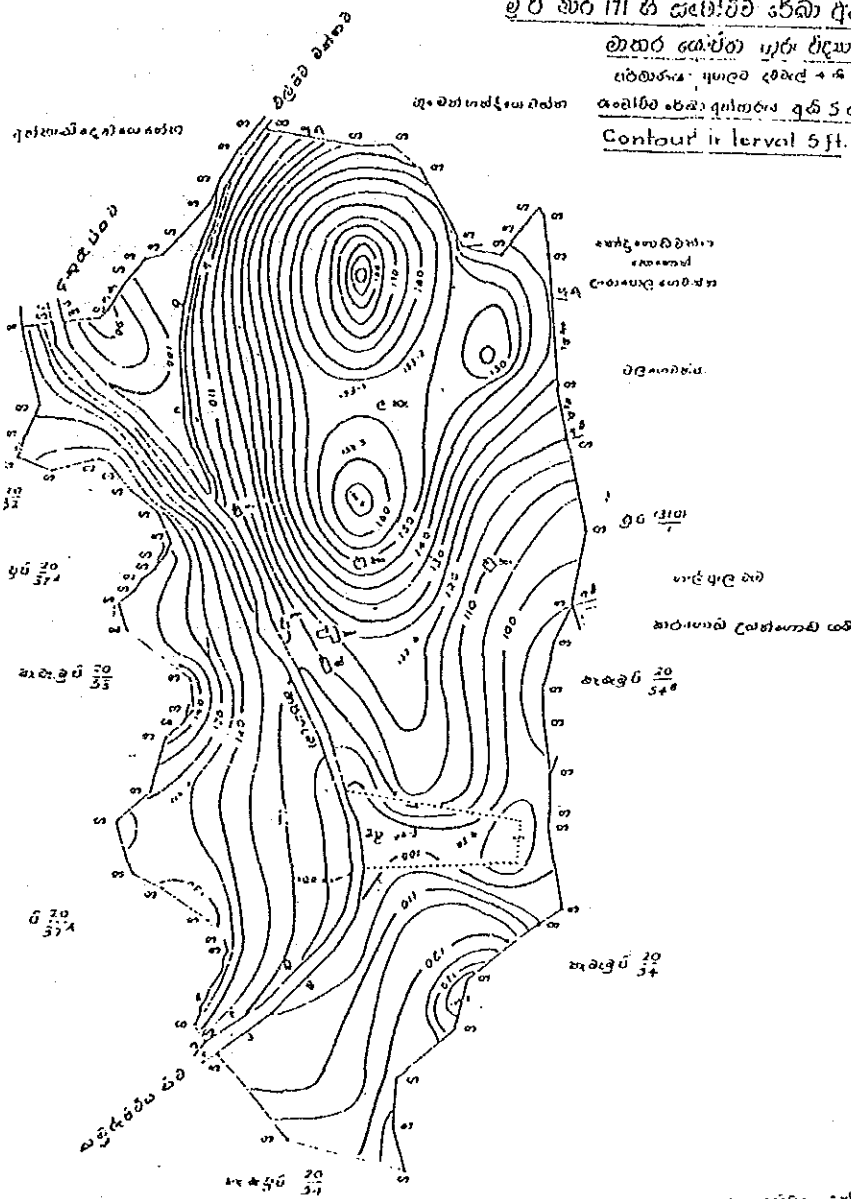
මුළු මාර 171 හි සැමවිට පේබා අනුරේඛනය

මහල සෑදීමේ ආරම්භක ඡායාරූප සාදන

වර්තමාන ආශ්‍රිත දිශාවේ + ෪

ආවේණික වස්තු අන්තරය අඩු 5 ජි

Contour interval 5 ft.



- ගම ඉහල අනුරේඛය
- ප්‍රාදාන ගමට අයත් ප්‍රදේශය
- දිස්ත්‍රික්කය මහල
- පළාත දකුණු

- පිටිකරණ
- ෨ වැඩිම මාල
 - ෩ වැඩිම
 - ෪ වැඩිම
 - ෫ වැඩිම
 - ෬ වැඩිම
 - ෭ වැඩිම
 - ෮ වැඩිම
 - ෯ වැඩිම
 - 10 වැඩිම
 - 11 වැඩිම
 - 12 වැඩිම
 - 13 වැඩිම
 - 14 වැඩිම
 - 15 වැඩිම
 - 16 වැඩිම
 - 17 වැඩිම
 - 18 වැඩිම
 - 19 වැඩිම
 - 20 වැඩිම

පුලුඳු මාවත

පුලුඳු මාවත

[Handwritten marks]

ANNEX 11

Items requested for "the Project" by the Government of Sri Lanka.

1) Facilities

(1) Administration Section

- * Office Room for Principal, Lecturers and other staff
- * Room for Mechanical and Electrical Services
- * Library
- * Storage

(2) Education Section

- * Class Room
- * Tutorial Class Room
- * Science Laboratory
- * Work Shop for Teaching of Technical Subject
- * Aesthetic Education Rooms
- * Home Science Room
- * Sick Room

(3) Dormitory

- * Canteen
- * Staff Quarters

(4) Sports Facilities

- * Gymnasium
- * Playground to provide 400M track

(5) Surrounding

- * Parking Area

2) Equipment

Related equipment of the Project.

Note 1: The Study Team explained to the Sri Lankan side that Principally, staff quarters could not be covered within the Japanese Grant Aid Programme but the Sri Lankan side strongly requests the Government of Japan that this Quarters should be constructed under the Grant Aid Scheme.

ANNEX 111

Following arrangements are required to be taken by the Government of Sri Lanka.

1. To secure a lot of land necessary for the construction of facilities and to clear, fill and level the site as needed before the start of the construction.
2. To provide necessary data and information for basic design.
3. To provide facilities for distribution of electricity, telephone and other incidental facilities to the proposed Project Site.
4. To ensure prompt unloading, tax exemption, customs clearance at ports of disembarkation in Sri Lanka, and prompt internal transportation therein of the products purchased under the grant.
5. To maintain and use properly and effectively that the facilities constructed and equipment purchased under the grant.
6. To undertake incidental civil works such as gardening, fencing gates and exterior lighting, if needed.

MINUTES OF DISCUSSION
 ON
 THE DRAFT REPORT OF BASIC DESIGN STUDY
 ON
 THE ESTABLISHMENT OF
 THE MATARA COLLEGE OF EDUCATION
 IN
 THE DEMOCRATIC SOCIALIST REPUBLIC OF SRI LANKA

With the view to assist the Government of the Democratic Socialist Republic of Sri Lanka with the grant aid project for the Establishment of the Matara College of Education (hereinafter referred to as "the Project"), the Government of Japan dispatched a Mission to carry out the Basic Design Study (hereinafter referred to as "the Study") on the Construction of the Project through Japan International Cooperation Agency (JICA) from August 12th to August, 29th, 1984.

The Mission carried out a field survey and had a series of discussions with the authorities concerned of the Government of Sri Lanka.

As a result of these survey and discussions, JICA prepared and submitted a Draft Final Report on the Study and dispatched a Mission to explain and discuss on this Report starting from October 15th to October 19th, 1984.

Both parties had a series of discussions on the Report and have agreed to recommend to their respective Governments that the major points of understanding reached between them, attached herewith, should be examined toward the realization of the Project.

October 17, 1984

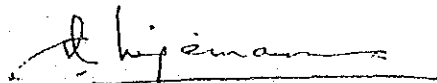
Colombo



YOSHIFUSA SHIKAMA

Team Leader

Draft Report of Basic Design Study Team
 JICA



E.L. WIJEMANNE

Secretary

Ministry of Education
 The Government of Sri Lanka

MAJOR POINTS OF UNDERSTANDING

BASIC DESIGN

1. The Sri Lankan side has principally agreed to the basic design proposed in the Draft Final Report.
2. The Final Report (10 copies in English) on the Project will be submitted to the Sri Lankan side by the end of January, 1985.
3. The Sri Lankan side understood the system of Japan's Grant Aid Programme and the major undertakings to be taken by both Governments for realization of the Project as shown in ANNEX 1 & 11.

f. 5

d

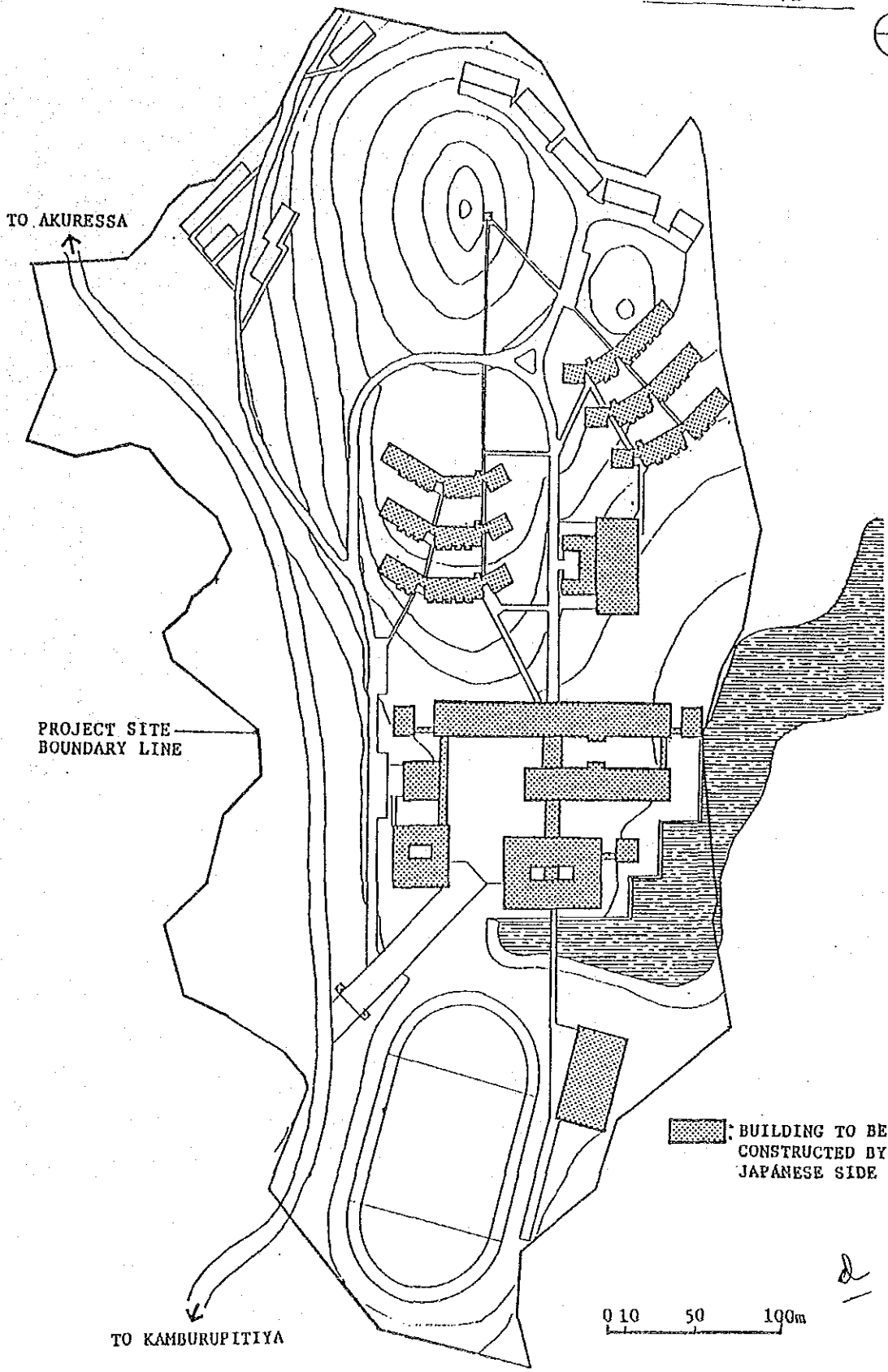
Major Undertakings to be done by both Governments

	Japanese Side	Sri Lanka Side
1. Acquisition of land area		o
2. Replacement of road trespassing the site of construction		o
3. Geological Survey		o
4. Preparation and levelling of the hill areas (Southern part)		o
5. Maintenance of road from Maṭara to the construction site		o
6. To construct the buildings without quarters	o	
To construct the staff quarters		o
7. To construct the road		
1) Compound road and parking pavement	o	
2) Others		o
8. Develop the landscape and tree planting in the site		o
9. To construct the fence around the site		o
10. External sporting facilities		
1) 400m track	o	
2) Others		o
11. To provide facilities for distribution on electricity, drainage and other incidental facilities		
1) Electricity		
a. Distributing line to the site		o
b. Internal wiring	o	
2) Drilling Tube well and water supply	o	
3) Drainage within the site	o	
4) Telephone System		
a. Telephone line incoming to the main distribution panel in the building		o
b. MDF and the extension after the main distribution panel	o	
12. Teaching Equipment and Furniture		
1) Teaching equipment and teaching furniture	o	
2) General Furniture		o

ed

4.5

ANNEX II



P.S.

d